筑後東部地区遺跡群Ⅳ

筑後市大字久恵、新溝、鶴田所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書
第30集

2000
筑後市教育委員会

筑後東部地区遺跡群Ⅳ

久恵北水原遺跡（くえきたみずはら）

久恵今町遺跡（くえいまま）

新溝犬丸遺跡（しんみぞいぬまる）

鶴田東大坪遺跡第２次調査（つるたひがしおおつぼ）

鶴田溝代遺跡（つるたみぞしろ）

序

本書に掲載した発掘調査は、平成９年度に行われた県営圃場整備事業筑後東部地区に伴う緊急発掘調査であります。

筑後市では近年、圃場整備事業により農業の合理化、近代化が進み、それに伴い発掘調査が増え筑後の歴史が明らかになる一方、文化的遺産である遺跡が消滅していく運命にあります。本市では圃場整備以外でも宅地等の開発が進んでおり、遺跡保存に対する緊急の対策が必要になっております。

筑後東部地区は縄文時代から近世までの様々な人々の足跡が残る土地であり、これまでにも多数の遺跡が調査され、多くの成果を挙げております。鶴田、久恵、新溝地区で今回も弥生時代と近世の遺跡を中心に調査成果を挙げることが出来ました。

本書が筑後市の歴史を解明する一助として、また文化財に対する理解と普及、保護の役に立てれば幸いです。

調査、報告に関して、関係者各位には多大のご協力を頂きましたことに厚くお礼申し上げます。

平成12年３月

筑後市教育委員会

教育長　牟田口和良

例言

1. 本書は筑後川水系農地開発事務所が平成９年度に実施した県営圃場整備事業筑後東部地区の事前調査として筑後市教育委員会が実施した埋蔵文化財調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。調査関係者は第Ⅰ章に記したとおりである。なお、出土遺物・図面・写真は筑後市教育委員会において収蔵、保管している。
3. 本書に使用した図面の内、久恵今町遺跡では、遺構全体図をアジア航測（株）に委託した。その他の遺構図は上村英士と江崎貴浩、末吉隆弥が作成し、遺物実測図、製図は平塚あけみが行った。
4. 本書に使用した遺構写真は上村が撮影し、空中写真は（有）空中写真企画に委託した。遺物写真撮影は上村が行った。
5. 今回の調査に用いた測量座標は、国土調査法第Ⅱ座標系を基準としており、方位は全て**座標北（G.N）**である。
6. 本書に使用した遺構の表示は、以下の略号による。
   SI-竪穴住居　SK-土壙　SX-不明、その他の遺構
7. 本書に掲載した周辺遺跡分布図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の1/25000地形図を加筆・複製したものである。（承認番号平12九複、第57号）
8. 本書の執筆、編集は上村が行った。

目次

Ⅰ．調査経過 …… 1
Ⅱ．位置と環境 …… 2
Ⅲ．調査成果 …… 5
(1) 久恵北水原遺跡 …… 5
(2) 久恵今町遺跡 …… 10
(3) 新溝犬丸遺跡 …… 28
(4) 鶴田東大坪遺跡第２次調査 …… 31
(5) 鶴田溝代遺跡 …… 34
Ⅳ．まとめ …… 37

Ⅰ．調査経過

県営圃場整備筑後東部地区は福岡県の南西部、筑後市の南東部に位置する。この地区は、米麦中心の二毛作穀倉地帯として農業経営が行われていたが、近代農業構造の改善に伴い施設園芸が導入され、農業経営は多様化している。しかし、耕地は不整形かつ狭小で分散され、道路や用水路の整備は行われていない状況であった。こうした状況の中、耕地の集団化、区画整理、農道の整備、用排水路の分離など営農体系を確立するため、平成３年度から圃場整備事業が実施されるようになった。(p2、Tab.1)

発掘調査については、平成９年度に福岡県筑後川水系農地開発事務所から筑後市教育委員会へ予定地内埋蔵文化財の確認依頼があり、これを受けた筑後市教育委員会では同年に試掘調査を実施し、工事予定地内に埋蔵文化財が認められた事を事業関係者に回答し協議を行った。協議の結果、「筑後東部地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査」として、掘削の及ぶ支線用排水路工事予定地、面の削平を受ける箇所を調査することになった。埋蔵文化財発掘調査の費用については国、県からの一部補助を受け、受益者負担分については文化財担当部局で負担し、残る費用については県水系事務所にて負担することで合意した。

調査は平成９年度に実施し、遺物の整理及び報告書作成については、平成10・11年度に筑後市文化財整理室にて行った。

なお、発掘調査及び整理作業の関係者は次のとおりである。

（平成９年度）

1)　調査主体

筑後市教育委員会

2)　総括

教育長	森田基之
教育部長	津留忠義
社会教育課長	山口逸郎
社会教育係長	田中清通
社会教育係	永見秀徳
〃	小林勇作
〃	田中　剛
〃	上村英士（調査報告担当）
〃	柴田　剛
〃	立石真二

3)　発掘調査参加者

地元有志

（平成11年度）

1)　調査主体

筑後市教育委員会

2)　総括

教育長	牟田口和良
教育部長	下川雅晴
社会教育課長	庄村國義
文化係長	田中僚一
社会教育係	永見秀徳
〃	小林勇作
〃	上村英士
〃	柴田　剛
〃	立石真二

4)　整理作業参加者

整理補助員	平塚あけみ	整理作業員	野間口靖子
〃	江藤玲子	〃	馬場敦子
		〃	湊まど香
		〃	湯川琴美
		〃	野口晴香

なお、調査及び整理に際しては、筑後東部地区土地改良区に御協力を頂き、次の方に御指導・御教示を賜った。記して心より感謝申し上げます。

小田和利（福岡県教育庁）

富永直樹（久留米市教育委員会）

山本信夫、山村信榮（太宰府市教育委員会）内田　信（筑後東部土地改良区）

Ⅱ．位置と環境

本書で報告する筑後市は福岡県の南西部に位置し、筑後平野のほぼ中央をしめる。筑後市東部地区遺跡群は筑後市の南東部に位置し、北には国道442号線、西は国道209号線、東は九州自動車道が南北に走り、南には一級河川の矢部川が西に流れる。筑後東部地区は市内有数の穀倉地帯であり、米麦を中心とした田園地帯が広がる。地形的に見ると、市北部に八女市、広川町から延びる八女丘陵と南に流れる矢部川に挟まれた低地に遺跡は展開する。

次に時代を追って市内遺跡を概観してみる。

縄文時代の遺跡は市の南部に集中しており、集落跡を検出した裏山遺跡、蔵数森ノ木遺跡等、市内で16遺跡を確認している。弥生時代の遺跡は、前期末から中期にかけての遺構を検出した常用遺跡、中期から古墳時代初めの集落跡を検出した蔵数森ノ木遺跡等が挙げられ、中期以降の遺跡は市内全域に分布しているものと考えられる。古墳時代の遺跡は、国指定文化財である石人山古墳があり、この他、八女丘陵沿いには欠塚古墳や瑞王寺古墳等の小規模な古墳も点在する。集落跡は田佛遺跡や蔵数森ノ木遺跡、久富鳥居遺跡等で確認されている。奈良時代の遺跡は、竪穴住居を多数検出した前津中ノ玉遺跡、若菜森坊遺跡等が挙げられる。平安時代の遺跡は、多量の墨書土器を出土した羽犬塚中道遺跡、多量の土器を出土した若菜森坊遺跡が挙げられる。中世以降の遺跡は、煮炊き具を多数出土した長崎坊田遺跡や漆器を出土した四ヶ所古四ヶ所遺跡等があり、市内全般で認められる。

本書に収める筑後東部地区遺跡群周辺は平成５年度から調査が行われ、現在までに33遺跡の調査が行われている。(Tab.1)

遺　跡　名	調査年度	時　　期	遺構の性格
鞍田岸添遺跡第１次	平成５年度	弥生～古墳	集落
新清丸田遺跡	〃	縄文・古墳	集落
鞍田柄原遺跡第１次	〃	中世	集落
鞍田前畑遺跡	〃	奈良・中世	集落
鞍田岸添遺跡第２次	平成６年度	弥生～古墳	集落
鞍田岸添遺跡第３次	〃	弥生～古墳	集落
久恵野元遺跡第１次	〃	中世	集落
久恵野元遺跡第２次	〃		
鞍田岸添遺跡第４次	〃	弥生～古墳・近世	集落
新清松原遺跡	〃	弥生～古墳	集落
久恵権藤遺跡第１次	平成７年度	弥生～中世	集落
久恵北草場遺跡	〃	弥生～古墳	集落
久恵内次郎遺跡第１次	〃	弥生	集落
鞍田武津恵遺跡	〃	弥生・中世	溝
鞍田柄原遺跡第２次	〃	中世	集落
久恵岸ノ下遺跡第１次	〃	中世	溝、土壙
久恵岸ノ下遺跡第２次	〃		
久恵権藤遺跡第２次	〃		
久恵上川原遺跡	〃	縄文～中世	集落
久恵川ノ上遺跡	〃	弥生～中世	集落
久恵内次郎遺跡第２次	〃	弥生～近世	溝
久恵中野遺跡	〃	縄文～古墳	集落
久恵東岸遺跡	〃	縄文～中世	土壙
鞍田西田遺跡	平成８年度	不明	溝
鞍田東大坪遺跡第１次	〃	縄文～中世	溝、土壙、墳墓
鞍田西畑遺跡	〃	古墳	集落、土壙
鞍田野田遺跡	〃	不明	溝
溝口北新替遺跡	平成９年度	中世	溝
久恵北水原遺跡	〃	弥生	溝
久恵今町遺跡	〃	弥生～中世	溝、竪穴住居
新清犬丸遺跡	〃	近世	溝
鞍田東大坪遺跡第２次	〃	近世	溝
鞍田溝代遺跡	〃	近世	溝

Tab.1　圃場整備に係わる筑後東部地区発掘調査（平成９年度まで）

	遺　跡　名
1	瑞王寺古墳
2	田佛遺跡
3	蔵数東野屋敷遺跡
4	石人山古墳
5	弘化谷古墳
6	蔵数坂口遺跡
7	蔵数森ノ木遺跡
8	久富鳥居遺跡
9	欠塚古墳
10	前津中ノ玉遺跡
11	四ヶ所古四ヶ所遺跡
12	羽犬塚中道遺跡
13	羽犬塚射場ノ本遺跡
14	若菜森坊遺跡
15	坊田遺跡
16	徳久中牟田遺跡
17	常用遺跡
18	裏山遺跡
19	鶴田岸添遺跡
20	新溝丸田遺跡
21	鶴田楢原遺跡
22	鶴田前畑遺跡
23	久恵野元遺跡
24	新溝松原遺跡
25	久恵権藤遺跡
26	久恵北草場遺跡
27	久恵内次郎遺跡
28	鶴田武津恵遺跡
29	久恵岸ノ下遺跡
30	久恵川ノ上遺跡
31	久恵中野遺跡
32	鶴田西田遺跡
33	鶴田東大坪遺跡
34	鶴田西畑遺跡
35	鶴田野田遺跡
36	溝口北新替遺跡
37	**久恵北水原遺跡**
38	**久恵今町遺跡**
39	**新溝犬丸遺跡**
40	**鶴田溝代遺跡**
41	**鶴田東大坪遺跡第２次**

Fig.1　周辺遺跡分布図（1/30000）

Ⅲ．調査成果

(1) 久恵北水原遺跡

1．はじめに

久恵北水原遺跡は、筑後市大字久恵字北水原に所在する。県営圃場整備事業筑後東部地区９工区について試掘調査を行った結果、掘削の及ぶ排水路部分について、溝と考えられる遺構を検出した為、本調査を行うことになった。調査対象面積は約136㎡、調査期間は平成９年10月６日から10月28日迄である。

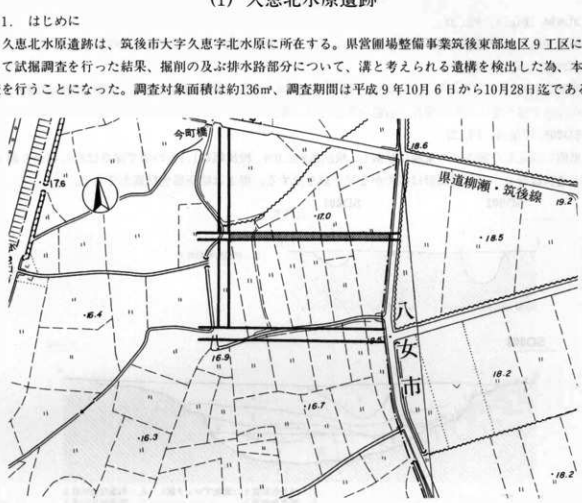


Fig.2　久恵北水原遺跡調査地点位置図（1/2500）

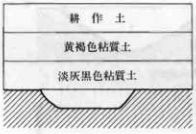


Fig.3　基本土層模式図

2．遺構

SD001（Fig.4、PL.2）

検出長約1.6ｍの南北溝で、検出幅約0.6ｍを測る。深さは約0.18ｍを測る。埋土は暗黒灰色粘質土である。遺物は土師器甕片が１点のみであった。

SD002（Fig.4、PL.2）

検出長約1.6ｍの南北溝で、SD001と並行する。検出幅約0.7ｍを測り、深さは約0.32ｍを測る。埋土はSD001と同じ暗黒灰色粘質土である。遺物は坏ないしは皿と考えられる土師器片を出土している。SD001と方位や規模、埋土が近似しており、この２条の溝は何らかの関係があると考えられるが、調査区が狭小の為、性格等を明らかにすることは困難であった。

SD003 (Fig.4、PL.2)

検出長約1.6mの南北溝で、検出幅約4.2mを測る。深さは約0.8mを測る。遺物は土師器細片のみである。

SD004 (Fig.4、PL.2)

検出長約1.6mの南北溝で、検出幅約1.5mを測る。深さは約0.72mを測る。遺物は皆無であった。

SD005 (Fig.4、PL.1)

検出長約1.4m、検出幅約14.3mの南北溝と考えられ、深さは約1.27mを測る。遺物は淡灰黒砂質土中から弥生土器と考えられる甕片と石器を出土している。

SD006 (Fig.4、PL.2)

東側に設定した調査区の東端に位置し、検出長約2.0m、検出幅約1.1mの溝で深さは約0.44mを測る。出土遺物はなく、溝の断面形は緩やかなV字形を呈する。埋土は暗茶黒色粘質土である。

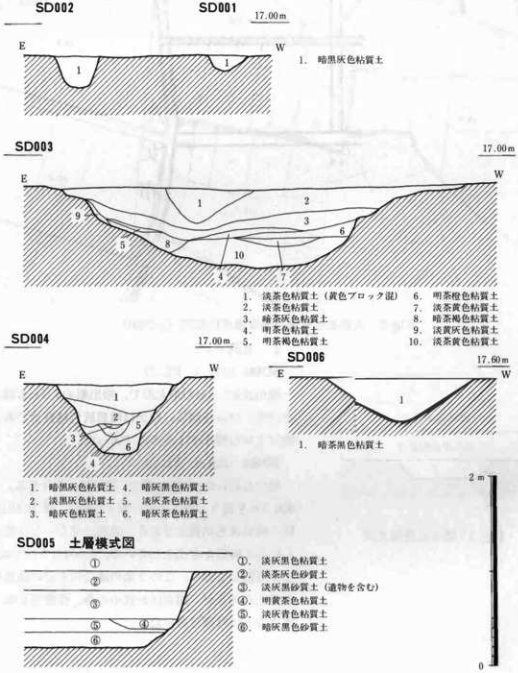
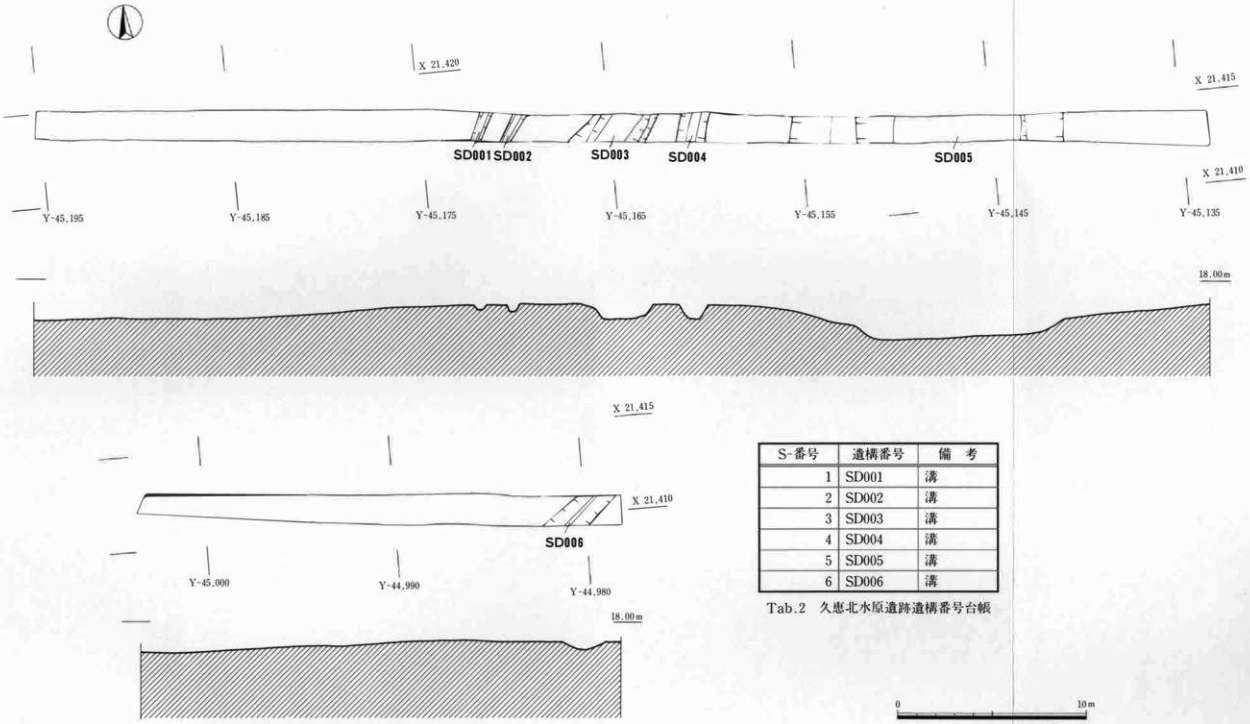


Fig.4 溝土層観察図 (1/40)



S-番号	遺構番号	備　考
1	SD001	溝
2	SD002	溝
3	SD003	溝
4	SD004	溝
5	SD005	溝
6	SD006	溝

Tab.2　久恵北水原遺跡遺構番号台帳

Fig.5　久恵北水原遺跡遺構全体図（1/200）

3. 遺物

SD001 (Fig.6、PL.12)

土師器

甕 (1)　口径28.8cm。外面を刷毛目、内面をヘラ削りを施し、口縁部はヨコナデする。胴部が張らないタイプである。

SD005 (Fig.6)

甕形土器

甕 (2)　底部破片で、1mm大の白色小砂粒を多く含む極めて粗い胎土である。磨耗が著しく調整は不明である。内外面ともに淡赤褐色である。

石器

石斧 (3)　砂岩製で、長さ12.4cm、幅5.8cm、厚さ3.3cmである。

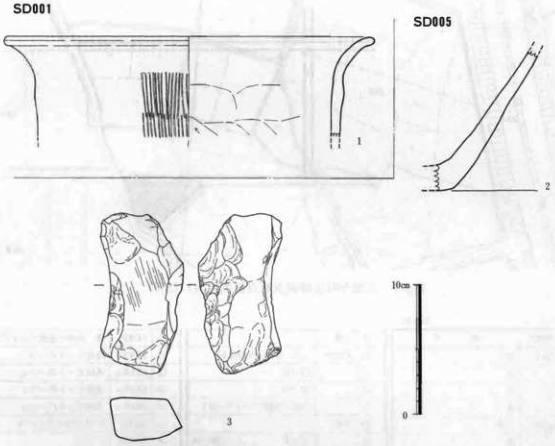


Fig.6　SD001・SD005出土遺物 (1/3)

4. 小結

今回の調査では5条の溝を検出したが、出土遺物はSD005の甕形土器片と石器、SD001の土師器甕片だけであり、しかも調査区が極めて狭い範囲であり、溝の時期や性格を決定するには至らなかった。

(2) 久恵今町遺跡

1. はじめに

久恵今町遺跡は、久恵北水原遺跡から北東に約150m程の位置にあり、筑後市大字久恵字今町に所在する。県営圃場整備事業筑後東部地区10工区内であり、事前の試掘調査で溝やピットを検出した為、協議を行った結果、排水路部分と面が削平される部分について本調査を行う事となった。調査面積は約900m²、調査期間は平成9年10月30日から12月26日迄である。

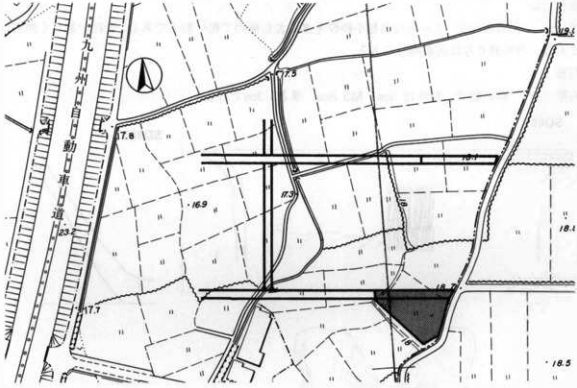


Fig.7 久恵今町遺跡調査地点位置図 (1/2500)

旧→新

S-番号	遺構番号	備　　考
1	SD001	溝
2		溝
3		溝
4		溝
5	SK005	土壙
6		溝
7	SD007	溝
8	SX008	SD006底部の連続ピットa~q
9		溝
10	SI010	竪穴住居
11	SD011	溝
12	SX012	SX008の連続ピット続きa~f
13		ピット
14		不明遺構
15	欠番	
16	SX016	S-7・11・26の合流部
17		17→16
18		18→16
19		SX027の連続ピットの一部?
20	欠番	
21		ピット　26→21
22		ピット　22→26
23		不明遺構
24		ピット　24→9
25	欠番	
26	SD026	溝
27	SX027	連続ピットa~q
28	欠番	
29	欠番	
30	SD030	溝、底部に連続ピット有り
31	SX035 f	連続ピットの一つf
32	SX035 q	連続ピットの一つq
33	SX035 s	連続ピットの一つs
34	SX035 a	連続ピットの一つa
35	SX035	S-31~34・37・a~k
36	SX036	ピット
37		連続ピットJ
38	欠番	
39	欠番	
40	SD040	SD001に流れ込む
41		不明遺構　41→40
42	SK042	不明遺構　42→40
43		不明遺構
44	欠番	

Tab.3 久恵今町遺構番号台帳

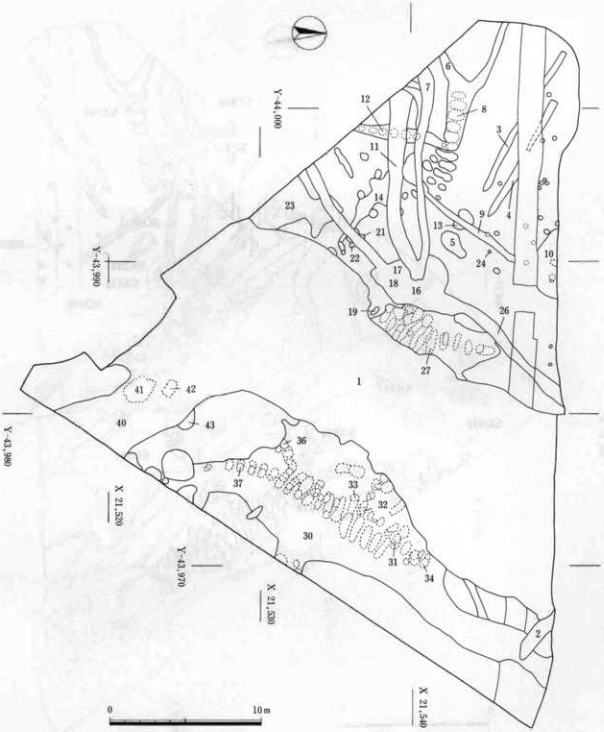


Fig.8　久恵今町遺跡遺構略測図（1/250）

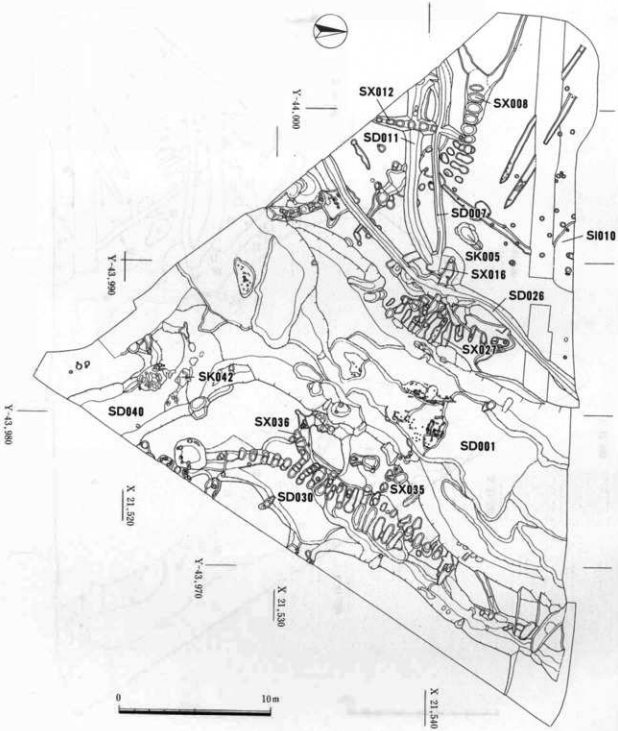


Fig.9　久恵今町遺跡遺構全体図 (1/250)

2. 遺構

住居

SI010

(Fig.10、PL.3)

調査区北端で検出した住居跡と考えられる遺構である。長軸約2.3m、短軸約1.7m、深さ約0.11mを測る。主軸からN-49°-Wである。住居に伴うと考えられるピットを二つ検出した。遺物はピットから弥生土器の甕小片と焼土塊を出土した。

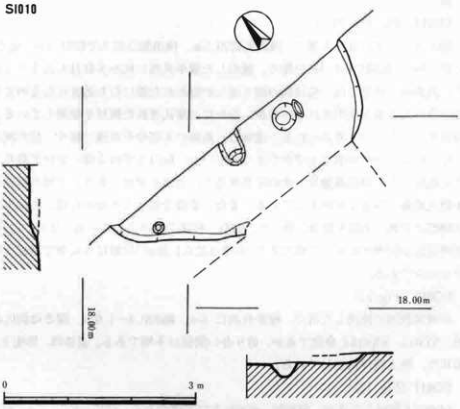


Fig.10 SI010遺構実測図 (1/60)

土壙

SK005

(Fig.11、PL.3)

楕円形を呈した土壙で、北側がテラスになる。長軸約2.15m、短軸約1.7m、深さは最大で約0.36mを測る。遺物は、土師器坏ないしは皿と考えられる小片と甕小片が出土している。

SK042 (Fig.11、PL.3)

SD040の底部から検出された隅丸方形の土壙である。長軸約1.1m、短軸0.6m、深さは最大で約0.12mを測る。SD040との関係は不明である。遺物は弥生土器甕小片、黒曜石剥片を出土した。

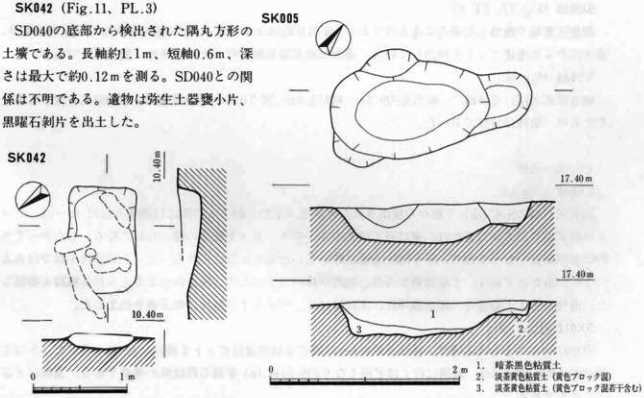


Fig.11 SK005・042遺構実測図 (1/40)

溝

SD001 (Fig.12、PL.4)

調査区を南北に貫く大溝で、検出長約29.5m、検出幅は最大で約11.5m、最小で約7.3m、深さは北側で約1.9m、南側で約1.6mを測る。検出した溝中央部に杭が多数打ち込まれており、南側に展開している。調査時の所見では、杭は溝の掘り直しが行われた際に打ち込まれたものと考えられ、杭の殆どは先端を削った丸木が使用されていたが、なかには穿孔された板材を使用しているところもあり、これらは再利用されたものと考えられる。遺物は、遺構の大部分を重機で掘り、杭の検出レベルから人手で掘り下げたため、層での取り上げができていないが、杭以下では3層に分けて取り上げた。上層である暗黒灰色粘質土から須恵器甕片、次の暗茶灰色土は遺物が皆無であり、下層の暗黒色粘質土からは、土師器小型丸底壺、石包丁が出土している。また、重機で掘った部分からは、弥生土器甕、高坏、須恵器坏、土師器小型鉢、小型丸底壺、甕、坏、砥石、石包丁が出土している。また、円筒埴輪片も出土している。現場近辺は田畑が広がる平地であり、古墳は北に1.8kmの位置に八女市で調査された岡山公園古墳が存在するのみである。

SD007 (Fig.12)

調査区西側で検出した溝で、検出長約12.5m、幅約0.4～1.0m、深さは約0.43～0.57mを測る。溝東端でSD011、SX016と合流するが、切り合い関係は不明である。遺物は、弥生土器甕片、須恵器片、土師器坏片、焼土塊が出土している。

SD011 (Fig.12)

SD007と併行して走り、SD009、SD012を切る溝である。検出長約12.3m、幅約0.8～1.3m、深さは約0.39mである。遺物は、須恵器坏片を出土した。

SD026 (Fig.12)

調査区を南北に走る溝で、中央部分でSX016と切り合うが前後関係は不明である。検出長約22.7m、幅約0.6～0.8m、深さは0.6～0.77mを測る。遺物は、土師器鉢片のみである

SD030 (Fig.12、PL.6)

調査区東端で検出した南北に走る溝である。検出長約30.0mである。中央部分はかなり不定形であり、溝底部からは連続ピットを検出している。遺物は須恵器長頸壺片、土師器坏片、甕把手片である。

SD040 (Fig.12)

調査区東南隅に走る溝で、検出長約9.3m、幅約4.0m、深さ0.5～0.8mを測る。SD001に合流する溝と考えられ、遺物は皆無であった。

その他の遺構

SX008 (Fig.14)

調査区西端のS-6（溝）下層から検出された連続ピットで、約7mの間に17個検出した（a～q）。ピット列は東端で二方向に分かれ、東に行くほど小さくなり、ピット底部の標高は高くなる。したがって当時は東側が高くなっており、S-6（溝）も東に続いていたものと考えられる。ピット底部は少量ではあるが小石が敷かれており、土層観察からは、底部が棒のようなもので突かれたと考えられる痕跡も確認した。遺物は弥生土器甕片、須恵器坏片、土師器坏片、サヌカイト剥片、焼土塊を出土した。

SX012 (Fig.15)

SD007・011に切られる溝で、検出長約6.0mの間に6個の連続ピットを検出した（a～f）。ピットは北側が深く約0.68m（c）、南側に行くほど浅くなり約0.51m（a）を測る階段状の遺構である。遺物は土器小片のみである。

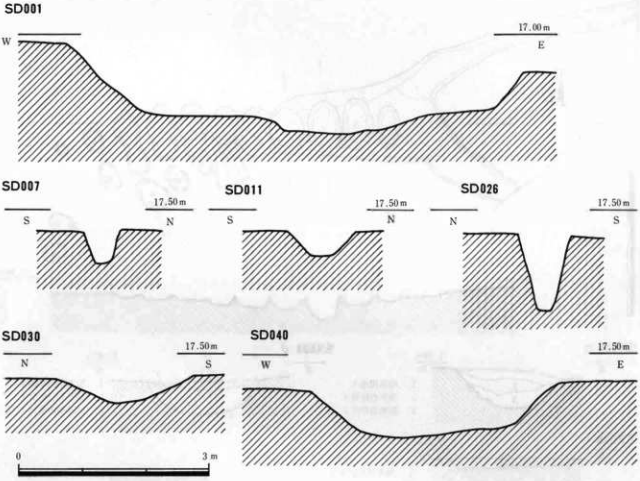


Fig.12　SD001・007・011・026・030・040土層断面図（1/60）

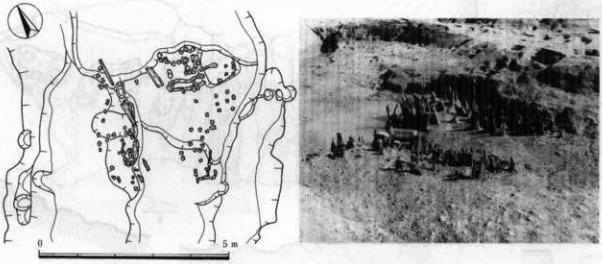


Fig.13　SD001中央部分杭列平面図（1/100）、写真（南西から）

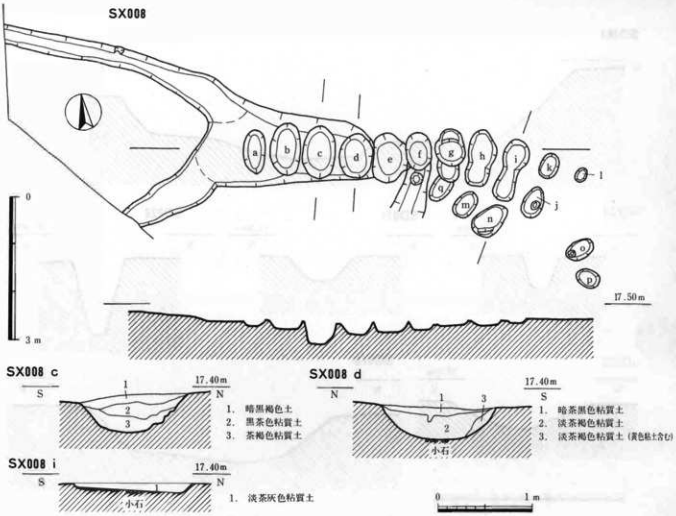


Fig.14　SX008遺構実測図、土層観察図（1/80・1/40）

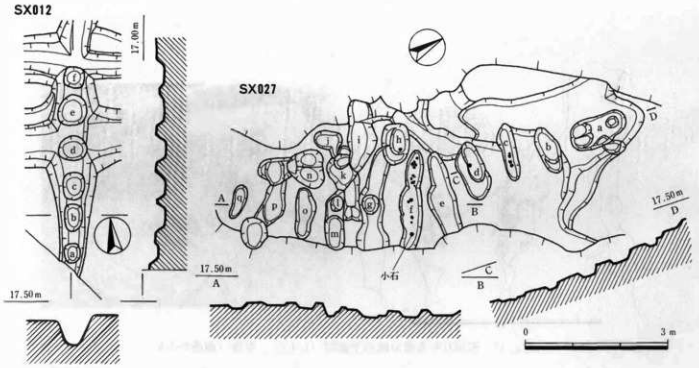


Fig.15　SX012・027遺構実測図（1/80）

SX016

SD007、SD011、SD026と切り合いをもつ遺構である。検出南北長約4.1m、東西長約3.8m、深さは最大で約0.43mを測る。遺物は弥生土器甕片、土師器坏片を出土した。

SX027 (Fig.15・16、PL.5)

SD001の西で検出された不定形の遺構で、約8.7mの間に17個のピットが存在している(a～q)。遺構の検出は重機掘削後、整地されたような複雑な埋土の重なりを掘り下げたところ、硬化面を検出し、その下層からピット列を検出した。ピット底部にはSX008で検出されたものと同様な小石が部分的に検出された。遺物は土器甕片、黒曜石剥片のみである。

SX035 (Fig.17)

SD030の溝下層から、約15mの間で連続ピットを46個検出した(S-31～34・37、a～k)。SX008と同様に溝掘り下げ後に確認した遺構である。遺物は、fから黒曜石剥片、qから土師器坏片黒曜石剥片、sから黒曜石片を出土した。

SX036

SD030下層から検出したピットである。SX035と一連のピット群とも考えられるが、あえて別遺構で報告する。検出長軸約0.6m、短軸約0.4mを測る。遺物は弥生土器甕片である。

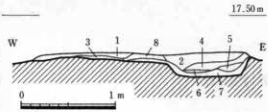


Fig.16 SX027f土層観察図 (1/40)

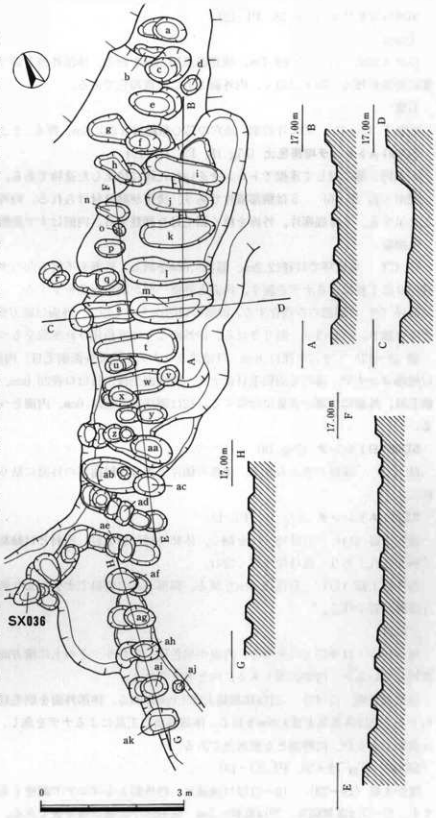


Fig.17 SX035遺構実測図、断面図 (1/80)

3. 遺物

土器・石器

SD001暗黒灰色土（Fig.18、PL.12）

須恵器

甕（1）　体部破片である。外面を格子叩き、内面は縦方向の当て具ないしは叩き痕が残る。還元焼成良好で明青灰色を呈する。

SD001暗黒色土（Fig.18、PL.12）

土師器

小型丸底壺（2）　口径9.7cm、残存器高10.5cmを測る。体部外面を刷毛目、内面をヘラ削りする。体部に黒斑が残る。胎土は粗く、内外面ともに淡黄褐色である。

石器

石包丁（3・4）　共に片岩製。紐穴の芯心距離は3が1.8cm、背まで1.2cm、4が2.7cm、1.7cmである。

SD001Aトレンチ暗黒色土（Fig.18、PL.12・13）

調査前に溝に対して重機でトレンチをいれた際に出土した遺物である。

甕形土器（5・6）　5は胴部破片であり、突帯が貼り付けられる。内外面は刷毛目が施され、淡茶褐色を呈する。6は底部片。外面を粗く刷毛目を調整する。内面はナデ調整。

土師器

坏（7）　丸底坏で口径12.2cm、器高5.0cmを測る。外面を不定方向のナデ調整。内面を中心から反時計回りに工具によるナデを施す。内面と外面一部が淡黒灰色を呈する。

高坏（8）　脚部のみ残存する。脚部の屈曲が大きく短い。外面は縦方向の削り後、横方向に細かいミガキを施す。内面はヘラ削りされる。内外面ともに黒色化され光沢をもつ。

甕（9～12）　9は口径17.6cm、口縁部ヨコナデ、体部外面刷毛目、内面ヘラ削り。10は口径18.2cm、口縁部ヨコナデ、体部外面刷毛目後ナデ、内面刷毛目。11は口径20.0cm、口縁部ヨコナデ、体部内外面刷毛目、外面には煤が多量に付着する。12は胴部最大径24.0cm、内面をヘラ削り、外面を刷毛目調整する。

SD001Bトレンチ（Fig.18）

鉢（13）　深鉢と考えられる。体部の細片であるが屈曲部の外面に貼り付け突帯が残り刻み目が施される。

SD001Aトレンチ（Fig.19、PL.13）

甕形土器（14）　口径18.0cmを測る。体部外面は刷毛目、内面と口縁部分はナデ調整する。胎土はよく精製されており、雲母片を多く含む。

高坏形土器（15）　底径18.0cmを測る。脚部のみの資料でナデにより調整する。外面は丹塗りであろう痕跡が若干残る。

土師器

坏（16）　口径15.0cmを測る。内面が黒色化しており、その上に横方向にミガキを施す。口縁端部は破損しているが、内側に若干入るものと考えられる。

小型丸底壺（17・18）　17は体部最大径9.0cmを測る。体部外面を刷毛目調整しており、一部に煤が付着する。18は体部最大径9.0cmを測る。体部外面に工具によるナデを施し、内面は強くナデている。焼成は良好であるが、内外面とも黒灰色である。

SD001（Fig.19・20、PL.13・14）

甕形土器（19～23）　19～21は口縁破片。内外面ともヨコナデ調整する。20は底外面一部に煤が付着する。21・22は底部破片。22は底径6.5cm、底部に平坦面が残る甕である。内外面ともに刷毛目調整。23

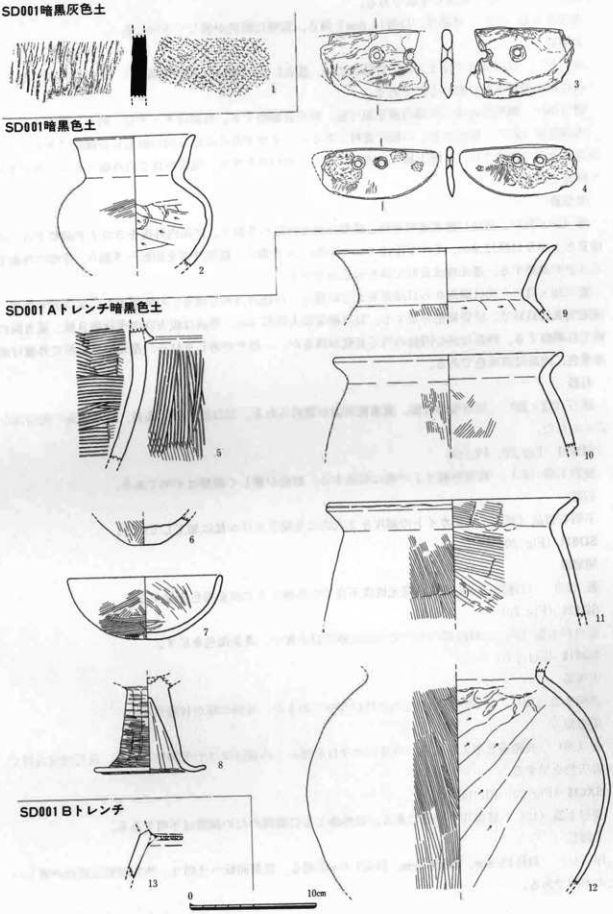


Fig.18 SD001暗黒灰色土・暗黒色土・Aトレンチ暗黒色土・Bトレンチ出土遺物実測図 (1/3)

は底径7.0cm、肉厚で完全な平底である。

高坏形土器（24）　坏部片。口径14.0cmを測る。調整は磨耗が著しく不明である。

土師器

鉢（25）　ほぼ完形で出土した。口径12.5cm、器高7.0cmを測る。磨耗が著しく、調整は不明。胎土は2mm程の小砂粒を含む粗いものである。

甕（26）　細片であるが体部内面を削り後、刷毛目調整する。外面はタタキ後、刷毛目調整する。

円筒埴輪（27）　風化が著しい破片資料であるが、タガ下部には縦方向の刷毛目が確認できる。タガ部分はナデで調整され、タガ上部には透かし孔の一部が残存する。焼成不良で内外面ともに白灰色を呈し軟質である。

須恵器

坏（28・29）　28は口縁部破損資料。底部外面を回転ヘラ削り、体部内外面をヨコナデ調整する。29は立ち上がり口径12.8cm、受け部径15.6cm、器高4.1cmを測る。底部外面を回転ヘラ削り、体部内外面をヨコナデ調整する。還元焼成良好で淡青灰色を呈する。

甕（30・31）　30は頸部から口縁部分までが残る。口径24.4cmを測る。内外面ともにヨコナデされ、還元焼成は良好で、淡青褐色を呈する。31は胴部最大径36.0cm、外面は縦方向の平行叩き後、横方向に刷毛目調整する。内面は同心円状の当て具痕が残るが、一部ナデ消しされる。還元焼成良好で外面は淡茶褐色、内面は淡灰色である。

石器

砥石（32・33）　32は安山岩製。表裏使用面が認められる。33は砂岩製。表裏、横と3面の使用面が認められた。

SD007（Fig.20、PL.14）

甕形土器（34）　底部外面を上げ底に形成する。磨耗が著しく調整は不明である。

石器

不明石製品（35）　サヌカイトの剝片を2次的に先端をドリル状に加工している。

SD011（Fig.20）

須恵器

蓋（36）　口径13.8cmを測る。還元焼成不良で内外面ともに淡赤褐色を呈する。

SD026（Fig.20）

器台形土器（37）　口縁部の小片で内面に刷毛目を施す。淡茶褐色を呈す。

SD030（Fig.20）

土師器

不明土器（38）　全体が磨耗のため調整が不明であるが、外面に煤が付着する。

須恵器

壺（39）　長頸壺と考えられる。外面にカキ目を施し、内面はヨコナデ調整される。還元焼成良好で淡青灰色を呈する。

SX016（Fig.20、PL.14）

甕形土器（40）　底部片で平底である。内外面ともに磨耗のため調整は不明である。

土師器

坏（41）　口径13.8cm、底径8.5cm、器高3.8cmを測る。底部回転ヘラ切り、体部調整は磨耗が著しいため不明である。

SD001 Aトレンチ

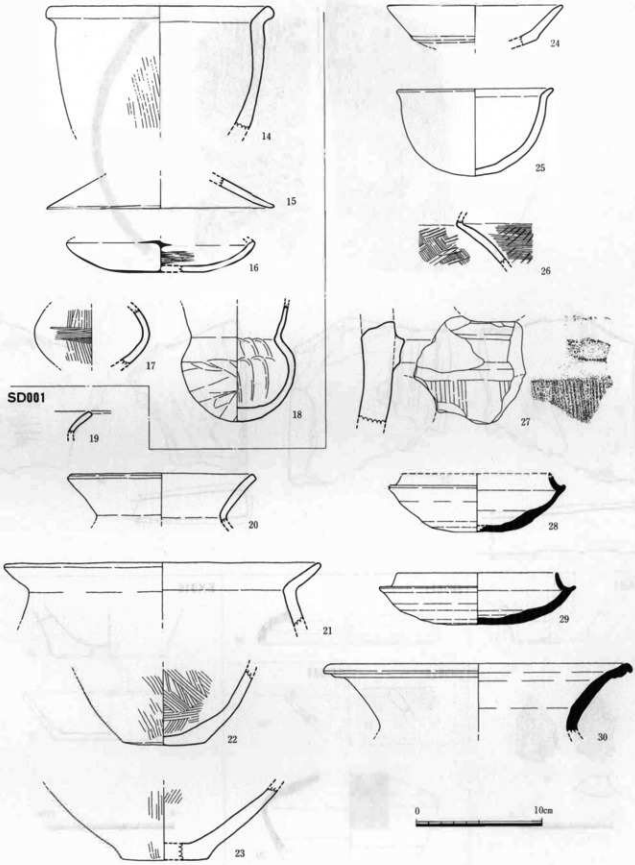


Fig.19 SD001Aトレンチ・SD001出土遺物実測図 (1/3)

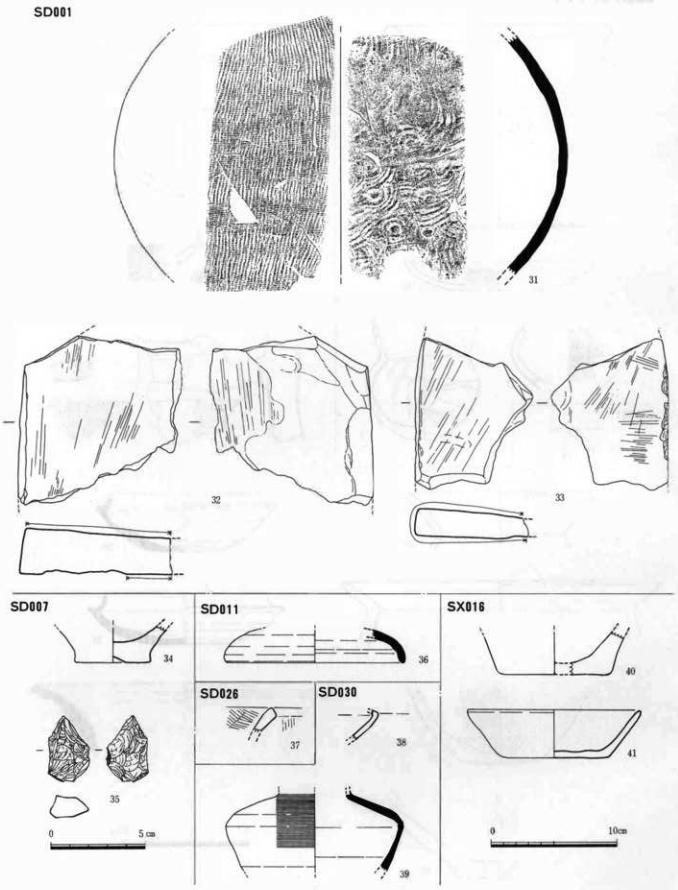


Fig.20　SD001・007・011・026・030・SX016出土遺物実測図（35のみ1/2・1/3）

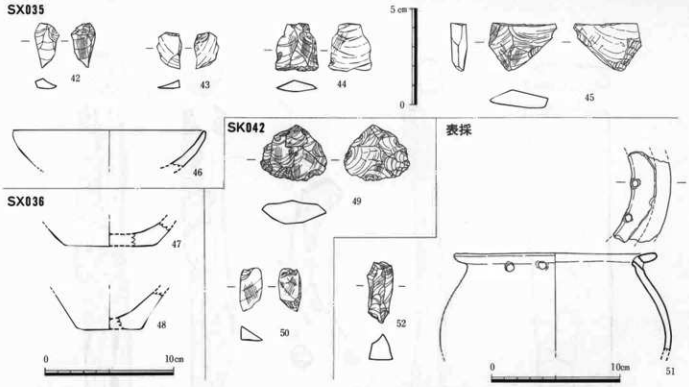


Fig.21　SX035・036・SK042・表採遺物実測図（石器1/2)、(土器1/3)

SX035（Fig.21、PL.14）

土師器

坏（46）　ピットｑから出土した。口径15.0cmを測る。磨耗が著しく調整は不明である。

石器

掻器（45）　ピットｓから出土したもので、材質は風化した古い剥片を使って２次加工で掻器に仕上げている。

黒曜石剥片（42～44）　42・43はピットｆから出土した。剥離面の風化が激しく古いものと考えられる。44はピットｑから出土した剥片。

SX036（Fig.21）

甕形土器（47・48）　共に底部片で平底である。調整は磨耗が著しく不明である。

SK042（Fig.21、PL.14）

石器

黒曜石剥片（49・50）　共に剥片で剥離面の風化が激しい。49は２次的加工がなされている製品の可能性がある。

表採（Fig.21、PL.14）

甕形土器（51）　口径15.8cmを測る。頸部に２ヶ所穿孔を施す。

石器

黒曜石核（52）　風化が著しい核で、古い時期のものと考えられる。

木製品

SD001（Fig.22～25、PL.14～17）

板材（53）　長さ82.0cm、幅9.0cm、厚さ3.0cm、両サイドに直径７mm程の穴が６ヶ所確認できる。

不明製品（54～56）　54は残存長44.5cm、最大径3.9cmを測る。下部に欠き込み面をもち、ほぞ穴に差し込むためのもの、ないしは建築部材の一部と考えられる。55は残存長14.5cm、最大幅6.5cmを測る。両端が破損して残存していない。８角形に面取りを施す。56は上端部を切断している可能性があり、下端は破損している。中央部分に１ヶ所直径８mm程の穿孔を施す。残存長18.0cm、最大径3.0cmを測る。

杭（57～78）　大小存在し、計測表を参照のこと。

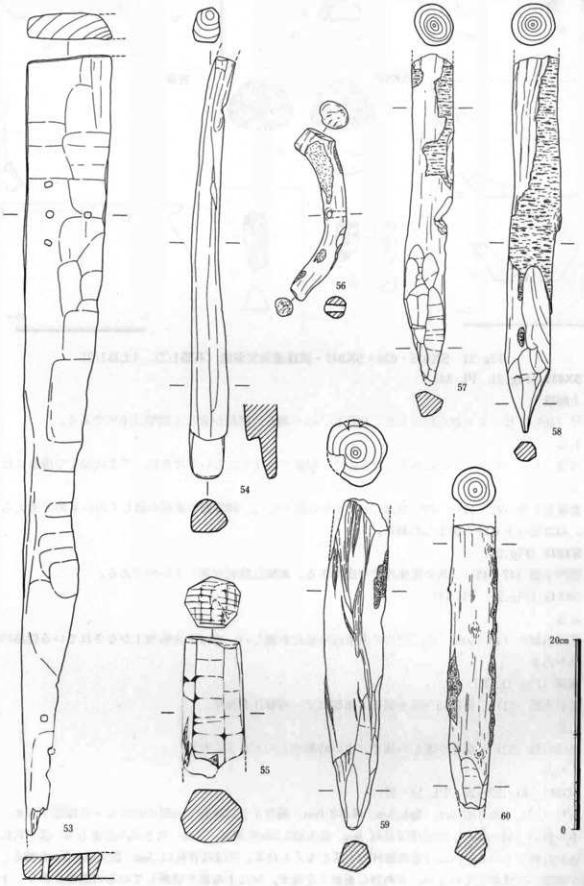


Fig.22　SD001出土木製品実測図①（1/4）

Fig.23　SD001出土木製品実測図②（1/4）

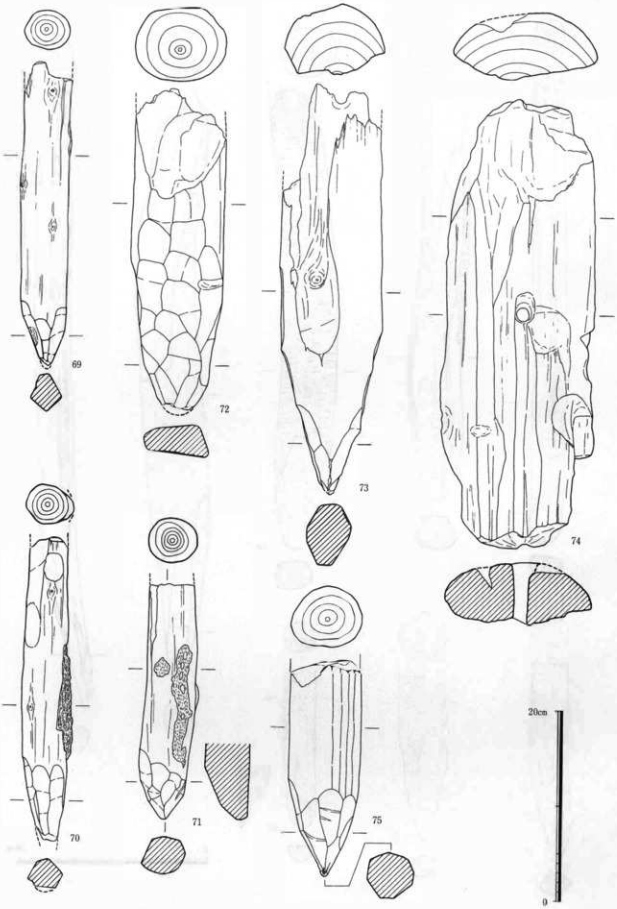


Fig.24　SD001出土木製品実測図③ (1/4)

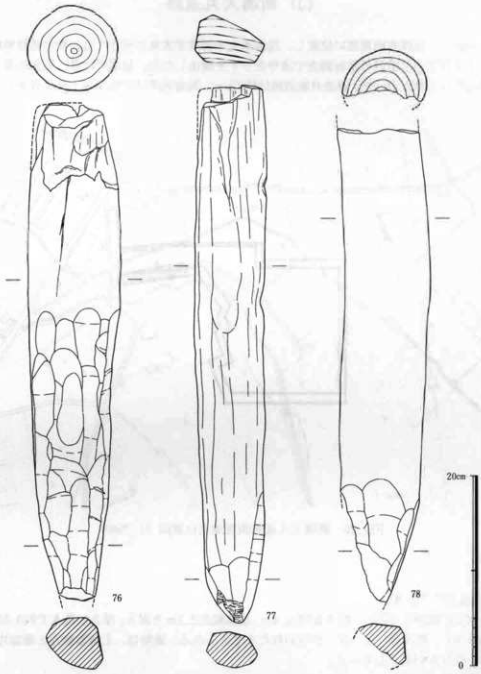


Fig.25　SD001出土木製品実測図④ (1/4)

4．小結

調査区からは、10条の溝と2基の土壙、1棟の住居、波板状の連続土壙を4ヶ所確認している。SD001出土遺物については、夜臼式土器片から須恵器甕片と時期的に幅が広いが、全体的には、弥生末から古墳時代にかけての遺物が大半を占める。また、最下層である暗黒色土からは、石包丁と小型丸底壺のみの出土であり、溝に対してもこの時期までは遡ることができないか。また波板状の連続土壙については、SX027以外は溝底部から検出されており、その性格については諸説を裏付ける結果を導き出せなかったが、SX027については土壙上面で硬化面を検出しており、路面を形成した道路部分の一部と考えることができる。住居、土壙については、時期を与える資料の出土や遺構の切り合いが確認できず、近隣調査での検出遺構や出土遺物からの検討が必要であろう。

(3) 新溝犬丸遺跡

1. はじめに

新溝犬丸遺跡は、筑後市南東部に位置し、筑後市大字新溝字犬丸に所在する。県営圃場整備事業筑後東部地区11工区内であり事前の試掘調査で溝やピットを検出したため、協議の結果、掘削の及ぶ排水路について本調査を行う事となった。調査対象面積は約350㎡、調査期間は平成10年1月5日から1月27日迄である。

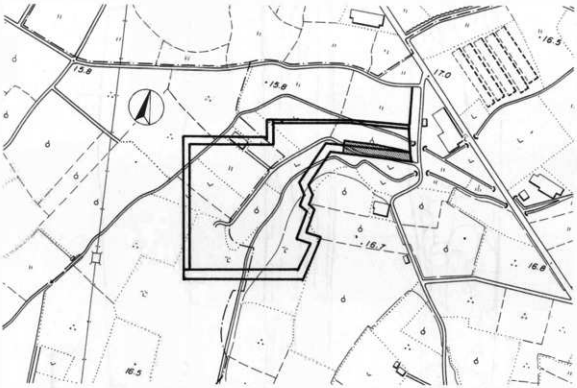


Fig.26 新溝犬丸遺跡調査地点位置図 (1/2500)

2. 遺構

溝

SD002 (Fig.28、PL.8)

調査区を南北に縦断する溝で、検出長約14.4m、検出幅約2.2mを測る。深さは最大で約0.63mを測る。溝は土層観察から、埋没後、掘り直しが行われたと考えられる。遺物は、土師器細片と磁器片、陶器片、瓦質の擂鉢、染付片が出土している。

SD003 (Fig.28、PL.8)

調査区西端に位置し、南北に調査区を縦断する溝である。溝の東端から緩やかに落ち込み（溝の可能性有）、その最も深い位置に溝が掘り込まれている。土層観察から、落ち込み部分が完全に埋没した後に溝が掘られている。出土遺物は皆無であった。

不明遺構

SX001

調査区東端にある不明遺構で、溝になる可能性がある。検出長約4.0m、検出幅約1.0m、深さ約0.1mを測る。遺物は土師器甕細片のみである。

S-番号	遺構番号	備　考
1	SX001	不明遺構
2	SD002	溝
3	SD003	溝

Tab.4 新溝犬丸遺跡遺構番号台帳

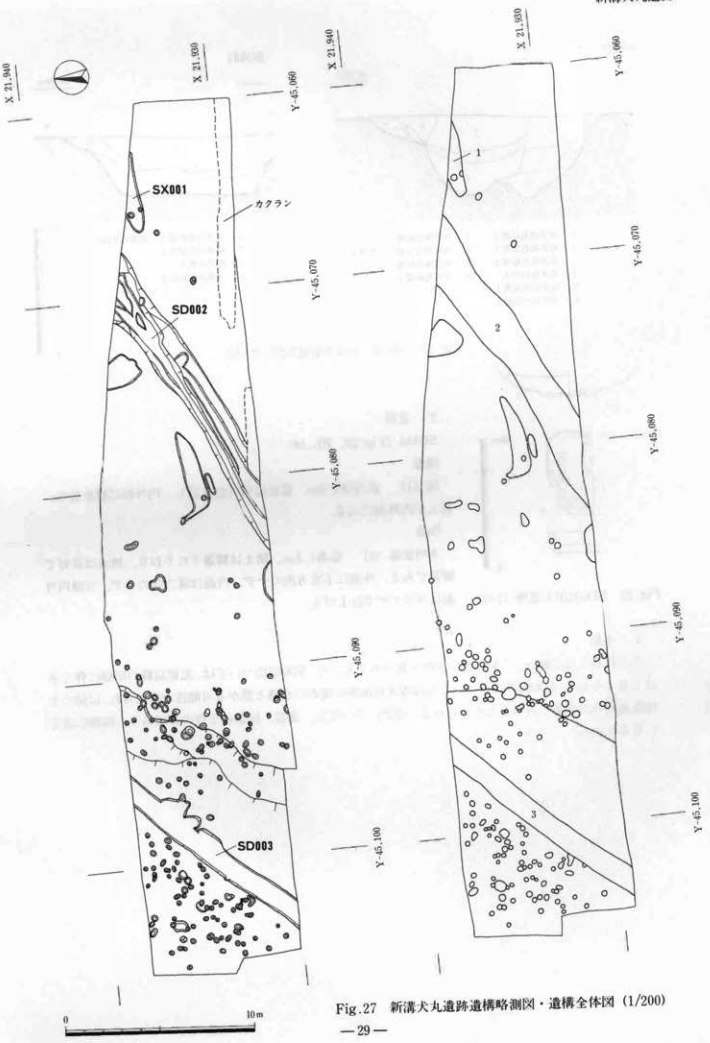


Fig.27 新溝犬丸遺跡遺構略測図・遺構全体図 (1/200)

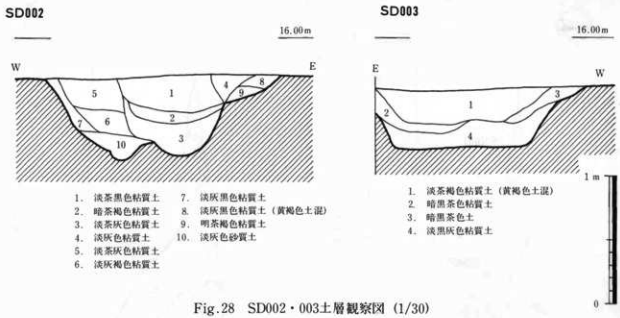


Fig.28 SD002・003土層観察図（1/30）

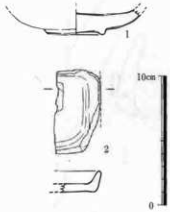


Fig.29 SD002出土遺物（1/3）

3. 遺物

SD002（Fig.29、PL.18）

磁器

碗（1） 高台径4.6cm、素地は明灰色を呈し、内外面に釉を施す。貫入が内外面に入る。

陶器

不明製品（2） 器高1.7cm、胎土は精選されており、焼成は良好で硬質である。外面は不定方向のナデ、内面は横方向のナデ、口縁内外面はヨコナデで仕上げる。

4. 小結

今回検出した遺構は、2本の溝と不明土壙のみであった。SD002については、近世以降の田畑に伴う水路と考えられる。SD003の溝については調査区外南側で現在の水路と繋がる可能性が考えられ、以前の土地改良時の旧水路であったと考えられる。遺物については、磁器、陶器の2点のみであり、時期の決定に至らなかった。

(4) 鶴田東大坪遺跡第２次調査

1. はじめに

鶴田東大坪遺跡は筑後市大字鶴田字東大坪に所在し、事前の試掘調査の結果、溝が確認された為、掘削が及ぶ排水路部分について本調査を行う事となった。平成８年度の県営圃場整備事業で第１次調査を行っており、今回の調査地はその北東に位置し、新溝犬丸遺跡の西に位置する。調査対象面積は約100m²、調査期間は平成10年１月27日から１月30日である。

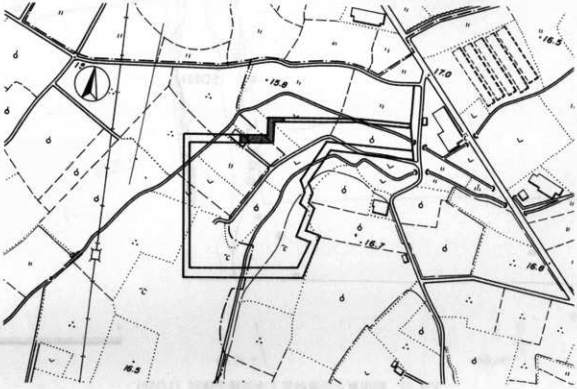


Fig.30　鶴田東大坪遺跡第２次調査地点位置図 (1/2500)

S-番号	遺構番号	備　考
1	SD001	溝

Tab.5　鶴田東大坪遺跡第２次遺構番号台帳

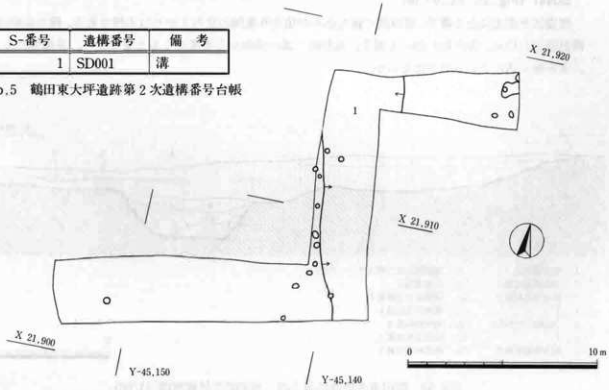


Fig.31　鶴田東大坪遺跡第２次遺構略測図 (1/200)

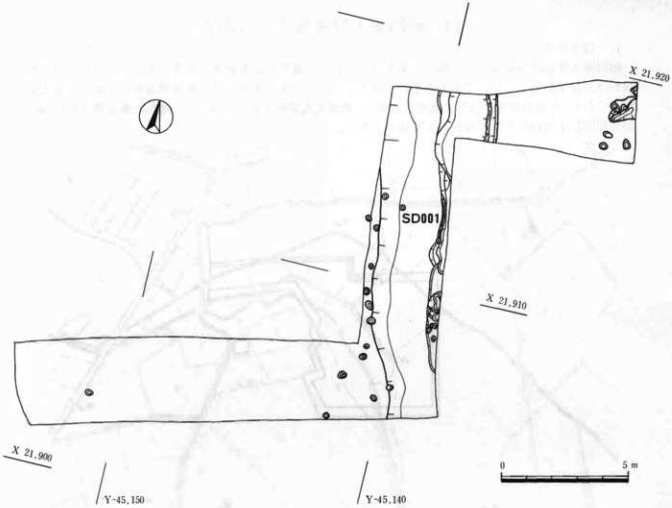


Fig.32　鶴田東大坪遺跡第２次遺構全体図（1/150）

2．遺構

SD001 (Fig.33、PL.9・10)

調査区を南北に走る溝で、溝西側で落ち込みが始まり東側の立ち上がりは不明である。検出長約11ｍ、検出幅約2.15ｍ、深さ約0.65ｍを測る。地形的に溝の西側から谷部になると考えられ、谷部分に人工的に溝を掘り込んでいるのではないか。

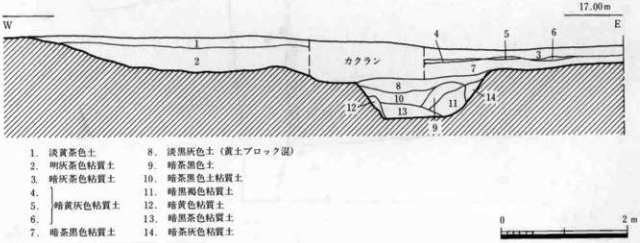


Fig.33　鶴田東大坪遺跡第２次　SD001土層観察図（1/60）

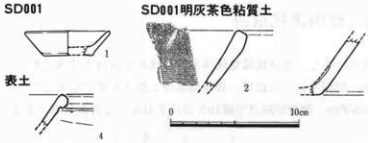


Fig.34　鶴田東大坪遺跡第２次遺物実測図（1/3）

SD001明灰茶色粘質土（Fig.34、PL.18）

土師器

擂鉢（2）　胎土はよく精選されており、内外面とも赤茶褐色である。体部内面はヨコナデ調整された後、すり目を縦方向に入れる。

鉢（3）　体部下半から底部にかけての小片である。焼成不良で調整等は不明である。

表土（Fig.34、PL.18）

陶器

鉢（4）　口縁を玉縁状に仕上げられた鉢小片である。内外面ともに暗紫褐色であり、口縁部分を施釉する。

4．小結

報告したように、調査区からは溝と考えられる遺構を検出したにとどまった。遺物についても、溝上層のみで出土しており、時期についての判断ができなかった。

3．遺物

SD001（Fig.34、PL.18）

土師器

小皿（1）　口径6.6cm、底径4.0cm、器高1.9cmを測る。胎土は小砂粒を若干含むが精選されている。体部内外面をヨコナデ調整、底部外面は回転糸切り痕が残る。

(5) 鶴田溝代遺跡

1. はじめに

鶴田溝代遺跡は、筑後市大字鶴田字溝代に所在し、県営圃場整備事業筑後東部地区11工区内である。事前の試掘調査で溝やピットを確認した為、協議を行った結果、排水路部分と削平を受ける面について本調査を行う事となった。調査対象面積は600m²、調査期間は平成10年2月2日から2月26日迄である。

Fig.35 鶴田溝代遺跡調査地点位置図 (1/2500)

2. 遺構

SD001 (Fig.37、PL.11)

調査区中央を環状にめぐる溝で、南側部分については調査区外に延びるものと考えられる。埋土は暗黒灰土であり、遺物は土師器甕細片のみであった。時期については遺物量の少なさから判断ができなかった。

SD002 (Fig.37、PL.11)

調査区東側で検出した溝で、調査区からさらに東側に延びると考えられる。SD003に西側を切られる。埋土は暗黒灰色土である。遺物は磁器片が出土している。

SD003 (Fig.37、PL.11)

SD002を切る南北の溝で、土層観察から溝の東側が西側より若干高くなっており、田畦に付帯する側溝部分ではないか。遺物は皆無であった。

SX004

不明土壙で、いわゆる風倒木痕と考えられる。遺物は、黒曜石石鏃片が一点出土している。

S-番号	遺構番号	備　考
1	SD001	溝
2	SD002	溝
3	SD003	溝
4	SX004	風倒木痕？

Tab.6 鶴田溝代遺構番号台帳

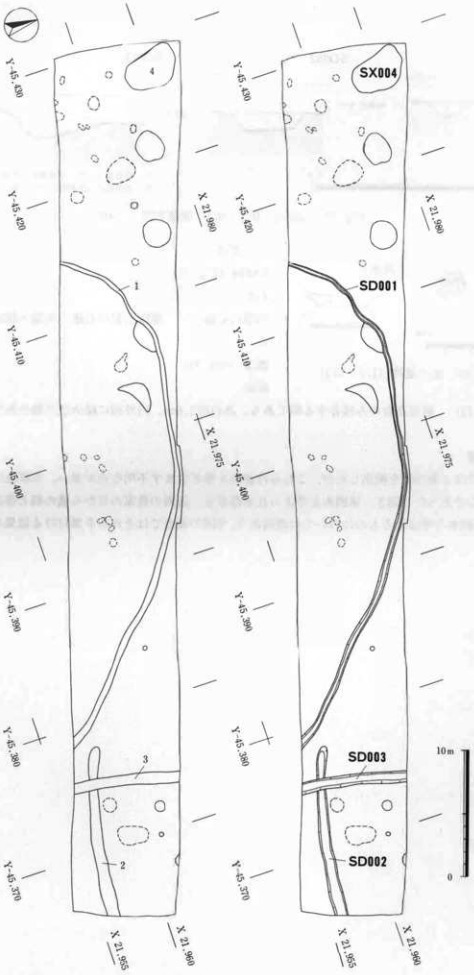


Fig.36 鶴田溝代遺跡遺構略測図・遺構全体図 (1/300)

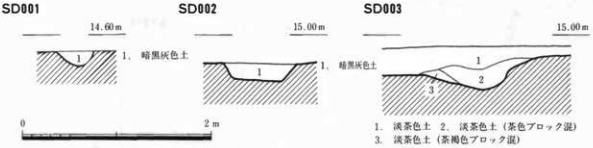


Fig.37 SD001・002・003土層観察図 (1/40)

Fig.38 出土遺物 (1/2・1/3)

3. 遺物

SX004 (Fig.38)

石器

黒曜石石鏃 (1) 黒曜石製の石鏃。先端と脚部が欠損している。

表土 (Fig.38)

磁器

青磁碗 (2) 底部高台のみ残存する碗である。高台径3.6cm。内外面に緑灰色の釉を施す。

4. 小結

調査区では3条の溝を検出したが、これらは遺物を殆ど含まず不明な点が多い。当該地は戦前から植栽培が盛んであったと聞き、風倒木と考えられる部分も、近所の農家の方から植の根と指摘を受けた。しかし、風倒木と呼ばれるものについては諸説あり、今回の調査ではそれらを裏付ける結果を出せなかった。

Ⅳ. まとめ

1. 各遺跡で検出された溝について

今回調査した遺跡（久恵北水原、久恵今町、新清犬丸、鶴田東大坪第２次、鶴田清代）からは、26条の溝ないしは水路と考えられる遺構を検出している。

これらの中で、久恵北水原遺跡SD001、久恵今町遺跡SD001の大溝は同規模で位置的に若干西に振れるが同一の溝と考えられ、時期的にも唯一古い時代のものと考えられる。他の溝については、田畑に伴う水路や近世に掘られた可能性が調査から窺えた。これら多くの溝が掘られた背景には幾つかの要因が考えられる。1.筑後市内は扇状地性の低地である事(標高約10～15ｍ)。2.遺跡南に存在する一級河川の矢部川は川底が周りに広がる土地より低く、昔から導水が困難であり、他に流れる河川（花宗川、山ノ井川、松永川など）についても近世に東の八女市部分に取水堰を設けた人工河川であった事。3.低地である筑後東部地区に広がる田畑の水利については近世文書によると、導水をするための多大な労力、工事が必要であった事。4.戦後の農業進歩に伴う田畑の整理や改良で地形が変化している事等から今回多くの溝検出につながったものと考えられる。

2. 各遺跡の集落について

検出した住居など、集落と考えられる遺構は久恵今町遺跡で竪穴住居を１棟検出したのみである。今回（平成９年度）久恵地区、新清地区、鶴田地区の圃場整備地区の排水路部分には試掘調査を全ての地域で行ったが(Fig.39)、住居やその他の遺構を検出することができなかった。集落については、既に報告されている新清丸田、鶴田岸添遺跡（東部地区遺跡群Ⅰ・Ⅱ）など、今回の調査地点から南西方向にしか展開していないことが窺える。

3. 久恵今町SX008・012・027・035の連続土壙について

検出した連続土壙は、小結で述べているとおり、溝に伴うものと土壙上面に硬化面を有するものに分かれる。そこで「波板状の連続土壙（道路状遺構）」の研究の中から、久恵今町遺跡について若干考察してみる。道路跡の研究は江戸時代から行われ(各地の地誌など)、現在では数多くの発掘調査から、古代の官道から集落を繋ぐ生活道まで確認されている。一般に道路の検出は両端に溝をもち、硬い（踏みしめられた）道路面が検出される例が挙げられるが、それ以外にも道路としての補助的な施設（遺構）が存在した場合でも道路跡と認識されている。一般に「官道」と呼ばれる遺構は道路幅が６・９・12ｍ等といったように規則性を持ち合わせた状況をもって定義されているが、農道や生活道については１ｍ～２ｍ等、又はそれぞれの幅があった様で明確に「道」であるというには根拠に乏しい。そこで、官道や一般道路等で検出される「波板状の連続土壙」をもって道路状遺構の一部と認識されているのが現状である。今回久恵今町遺跡から検出された連続土壙というのは、各地の道路状遺構に伴って検出される「波板状の連続土壙」と同様のものと考えられる。この連続土壙とは諸例から、道路両端の側溝の中に溝に直交した形で80cmから１ｍ程の土壙を掘り込んでいるもの、または路面中央に連続して掘り込まれているものと言われており、検出された４つの連続土壙の内、SX008・012・035については前者、SX027については後者に該当すると考えられる。連続土壙の性格については、路面の基礎形成や補修等といったものから、「木馬道」と呼ばれる丸太を敷いた運搬用の施設、丸太を土壙に敷いて、その上に板材を乗せ地盤の沈下を防ぐ道と言われるものなど様々であるが、今回の調査で確認したのは、土壙底部に小石が地山に突き込まれたような痕跡と、土壙上部の硬化面のみであり、調査当時「道路状遺構」としての認識が浅く詳細なデータが得られなかったのは残念である。近年、筑後市でも西海道の調査を行っており、道路状遺構の調査成果が待たれるところである。

参考文献　近本喜続『松永川水利誌』『筑後郷土史研究会誌』第９号　1987　筑後郷土史研究会
　　〃　　『矢部川補稿』『筑後郷土史研究会誌』第５号　1985　筑後郷土史研究会
　　木下　良『古代の交通』1996年　吉川弘文館
　　早川　泉『古代道路に残された圧痕』『東京考古』第９号　1991年　東京考古談話会
　　『季刊考古学』1995年　雄山閣
　　中間研志『薬師堂東遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－13－　1988年　福岡県教育委員会
　　小田和利
　　重永卓爾『大岩田村ノ前遺跡発掘調査報告書』都城市文化財調査報告書第４集　1991年　宮崎県都城市教育委員会
　　近澤康治『筑後国府跡・国分寺跡』久留米市文化財調査報告書第59集　1989　久留米市教育委員会

Tab.7　出土遺物一覧表

久恵北水原遺跡

S-1

土師器	甕片

S-2

土師器	坏×皿片

S-3

土師器	細片

S-4

遺物無し	

S-5

弥生土器	甕底部片

久恵今町遺跡

S-1

弥生土器	甕、高坏
須恵器	甕、坏片
土師器	小型鉢、小丸壺、甕、坏片
石製品	砥石、石包丁
その他	円筒埴輪片

S-2

土師器	坏×皿片

S-3

不明	甕片

S-4

不明	甕片

S-5

土師器	坏×皿片、甕片
その他	焼土塊

S-6

土師器	小片

S-7

弥生土器	甕底部片
須恵器	片
土師器	蓋片
その他	焼土塊

S-8

弥生土器	甕片
須恵器	坏×蓋片
土師器	坏×皿片
石製品	サヌカイト
その他	焼土塊

S-9

遺物無し	

S-10

弥生土器	甕片
その他	焼土塊

S-11

不明	片
須恵器	坏片

S-12

不明	片

S-13

土師器	坏×皿片

S-14

遺物無し	

S-16

弥生土器	甕片
土師器	坏片

S-17

土師器	小片

S-18

不明	甕片

S-19

土師器	小片

S-21

土師器	坏×皿片

S-22

土師器	小片

S-23

土師器	小片

S-24

土師器	坏×皿片

S-26

土師器	鉢片

S-27

不明	甕片
その他	黒曜石片

S-28

弥生土器	甕片
土師器	坏×皿片
その他	黒曜石片

S-30

須恵器	長頸壺片
土師器	坏×皿片、甕把手片

S-31

その他	黒曜石片

S-32

須恵器	蓋片
土師器	坏片
その他	黒曜石片

S-33

土師器	甕片、坏×皿片

S-34

不明	甕片
土師器	坏×皿片

S-36

弥生土器	甕底部片

S-37

土師器	坏×皿片、小片

S-40

遺物無し	

S-41

不明	甕片
土師器	坏片

S-42

弥生土器	甕片
その他	黒曜石片

S-43

不明	片
土師器	坏×皿片

表土

弥生土器	甕片、小片
須恵器	壺×甕片
土師器	小片

新溝犬丸遺跡

S-1

土師器	片（瓦質）

S-2

土師器	細片
磁器	片
陶器	片
瓦質土器	擂鉢

鵜田東大坪遺跡第２次

S-1

土師器	皿（糸）、坏×皿片、細片
磁器	片
陶器	片

表土

陶器	片

鵜田溝代遺跡

S-1

土師器	甕片

S-2

磁器	青磁片、片

S-3

遺物無し	

S-4

その他	黒曜石片

表土

土師器	片
磁器	龍泉窯系青磁片、片

Tab.8　久恵北水原遺跡遺物観察表　【単位はcm、°は復原値、+は欠損】

遺　構	Fig.	番号	名称	器種	R番号	口径	器高	底径	残　存	備　考
SD001	6	1	土師器	甕	001	28.8°	—	—	口縁部片	
SD005	6	2	弥生土器	甕	001	—	—	—	底部片	
〃	6	3	石器	石斧	002	12.4	5.8	3.3	完形	

久恵今町遺跡遺物観察表　【単位はcm、°は復原値】

遺　構	Fig.	番号	名称	器種	R番号	口径	器高	底径	残　存	備　考
SD001暗黒灰色土	18	1	須恵器	甕	001	—	—	—	細片	
SD001暗黒色土	18	2	土師器	小丸壷	001	9.7°	12.0°	—	底部欠損	
	18	3	石器	石包丁	003	8.5°	1.0	5.6	2/3残存	
	18	4	〃	石包丁	002	9.3°	0.6	4.0	一部欠損	
SD001Aトレンチ暗黒色土	18	5	弥生土器	甕	004	—	—	—	一部欠損	
	18	6	〃	甕	005	—	—	2.2	底部残存	
	18	7	土師器	坏	006	12.2	5.0	—	口縁1/4欠	
	18	8	〃	高坏	007	—	—	8.8°	脚部残存	
	18	9	〃	甕	001	17.6°	—	—	細片	
	18	10	〃	甕	002	18.2°	—	—	〃	
	18	11	〃	甕	003	20.0°	—	—	〃	
	18	12	〃	甕	008	—	—	—	体部細片	
SD001Bトレンチ	18	13	弥生土器	甕	001	—	—	—	口縁細片	
SD001Aトレンチ	19	14	弥生土器	甕	002	18.0°	—	—	3/4欠損	
	19	15	〃	高坏	001	—	—	18.0°	脚部細片	
	19	16	土師器	坏	005	—	—	15.0°	口縁1/4欠損	
	19	17	〃	小丸壷	004	—	—	—	体部細片	
	19	18	〃	小丸壷	003	—	—	—	口縁、体部一部欠	
SD001	19	19	弥生土器	甕	003	—	—	—	口縁、体部一部欠	
	19	20	〃	甕	002	15.0	—	—	〃	
	19	21	〃	甕	001	25.0°	—	—	口縁細片	
	19	22	〃	甕	004	—	—	6.5	底部片	
	19	23	〃	甕	005	—	—	7.0°	底部細片	
	19	24	〃	高坏	006	14.0°	—	—	口径1/6	
	19	25	土師器	鉢	012	12.5	7.0	—	ほぼ完形	
	19	26	〃	甕	011	—	—	—	細片	
	19	27	埴輪	円筒	013	—	—	—	細片	
	19	28	須恵器	坏	007	11.8°	4.7°	14.0	細片	
	19	29	〃	坏	008	12.8°	4.1	15.6°	1/4弱	
	19	30	〃	甕	009	24.4	—	—	口径2/3	
	20	31	〃	甕	010	36.0	—	—	体部細片	
	20	32	石器	砥石	015	—	—	—	〃	安山岩
	20	33	〃	砥石	014	—	—	—	〃	砂岩
SD007	20	34	弥生土器	甕	001	—	—	6.0°	底部1/2残存	
	20	35	石器	不明	002	—	—	—		
SD011	20	36	須恵器	蓋	001	13.8°	—	—	細片	
SD026	20	37	弥生土器	器台	001	—	—	—	細片	
	20	38	土師器	不明	002	—	—	—	〃	
SD030	20	39	須恵器	長頸壷	001	—	—	—	体部細片	
SX016	20	40	弥生土器	甕	001	—	—	9.0°	底部細片	
	20	41	土師器	坏	002	13.8°	3.8	8.5°	1/2欠損	
SX035f	21	42	石器	剥片	004	—	—	—		
	21	43	〃	剥片	005	—	—	—		
SX035q	21	44	〃	剥片	002	—	—	—		
SX035s	21	45	〃	掻器	003	—	—	—		
SX035q	21	46	土師器	坏	001	15.0°	—	—	細片	
SX036	21	47	弥生土器	甕	002	—	—	7.0°	細片	
	21	48	〃	甕	001	—	—	5.2°	底部細片	
SK042	21	49	石器	剥片	001	—	—	—		
	21	50	〃	剥片	002	—	—	—		
表採	21	51	弥生土器	甕	001	15.8°	—	—	細片	頸部に穿孔2ヶ所
	21	52	石器	石核	002	—	—	—		

新清犬丸遺跡遺物観察表　【単位はcm、*は復原値、*は欠損】

遺　構	Fig.	番号	名称	器種	R番号	口径	器高	底径	残　存	備　考
SD002	29	2	陶器	不明	001	—	—	—	2/3欠	
	29	1	磁器	碗	002	—	—	4.6*	底部細片	

鶴田東大坪遺跡第２次遺物観察表

SD001	34	1	土師器	小皿	001	6.6*	1.9	4.0*	細片	
SD001明灰茶色粘質土	34	2	〃	擂鉢	002	—	—	—	〃	
	34	3	〃	鉢	003	—	—	—	〃	
表土	34	4	陶器	鉢	001	—	—	—	細片	

鶴田清代遺跡遺物観察表

SX004	38	1	石器	石鏃	001	—	—	—	破損	
表土	38	2	青磁	碗	001	—	—	5.6*	細片	

木製品観察表　*は残存長

遺構番号	挿図番号	R番号	最大長	最大幅	残　存	備　考
SD001	53	25	82.0*	9.0		穿孔６ヶあり
	54	26	44.5*	3.9		
	55	2	14.5*	6.5		８角形に成形
	56	1	18.0	3.0	完形	穿孔１ヶあり
	57	7	35.0*	4.5		
	58	8	40.0*	4.8	完形	
	59	11	34.8*	7.0		
	60	20	30.0*	4.6		
	61	17	50.0*	3.6		焼き痕
	62	13	44.2	5.5	完形	
	63	9	49.0*	5.8		
	64	16	62.8*	6.5		
	65	24	65.0*	3.8		
	66	4	20.5*	4.0		
	67	5	17.4*	5.3		
	68	3	16.5*	3.5		
	69	18	32.0*	4.9		
	70	19	32.0*	4.5		
	71	6	25.0*	5.3		
	72	12	33.5*	9.5		焼き痕
	73	14	43.3*	10.5		
	74	22	47.5*	15.5		穿孔１ヶあり
	75	21	22.6*	7.5		
	76	15	52.5	9.5	完形	
	77	10	56.5	7.3		
	78	23	50.0*	9.5		

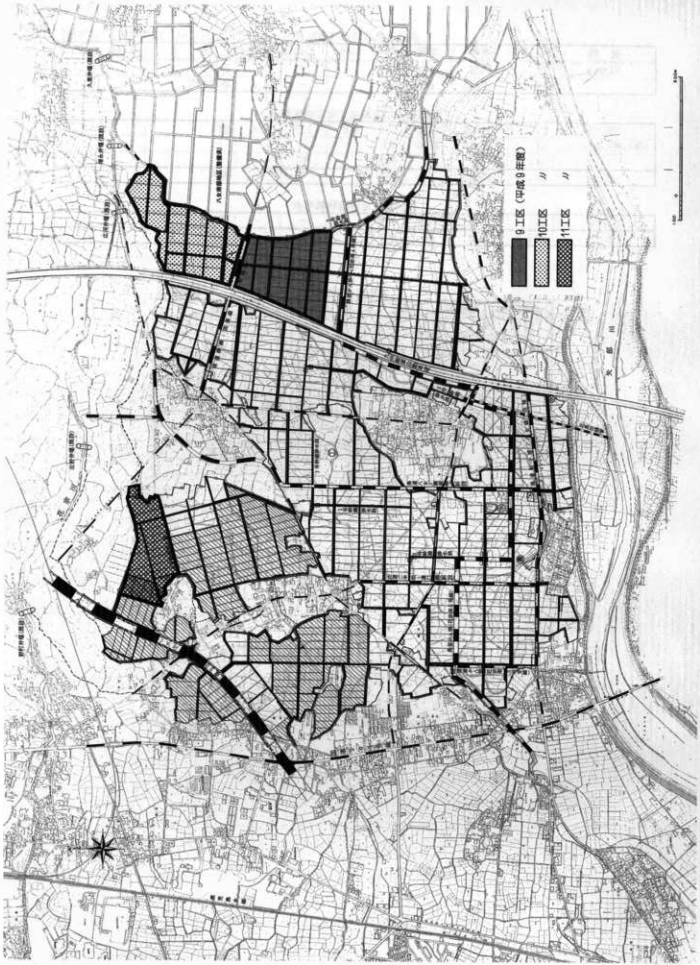


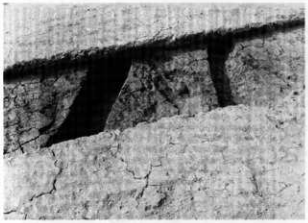
Fig.39　県営圃場整備事業筑後東部地区計画概要図（1/16000）

図　版

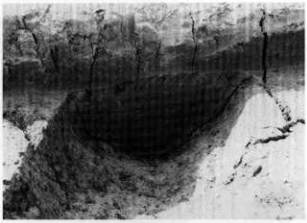
凡例

久恵北水原遺跡西側調査区全景（東から）

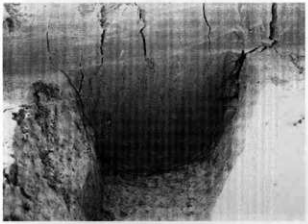
久恵北水原遺跡東側調査区全景（西から）



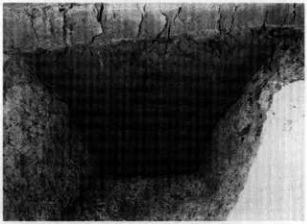
SD001・002完掘状況（北から）



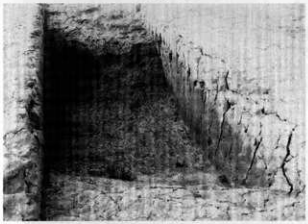
SD001土層観察（南から）



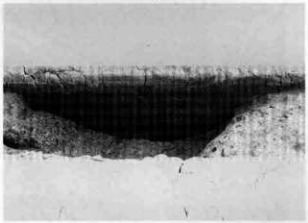
SD002土層観察（南から）



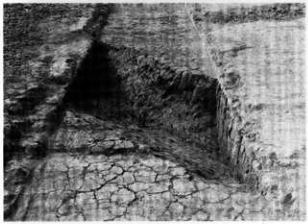
SD004土層観察（南から）



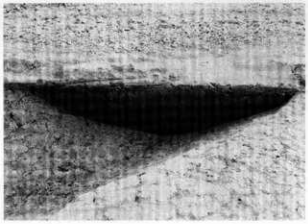
SD003完掘状況（東から）



SD003土層観察（南から）

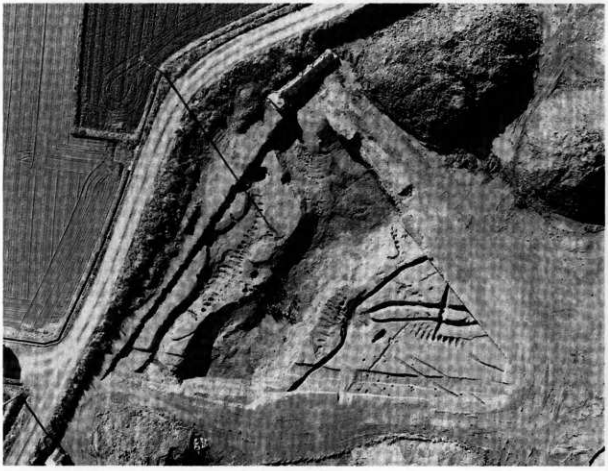


SD006完掘状況（北から）

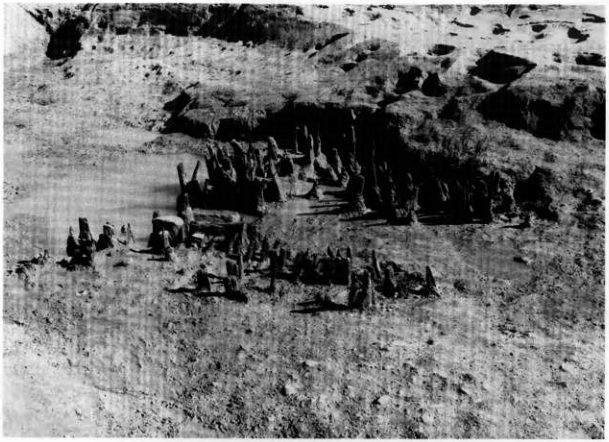


SD006土層観察（南から）

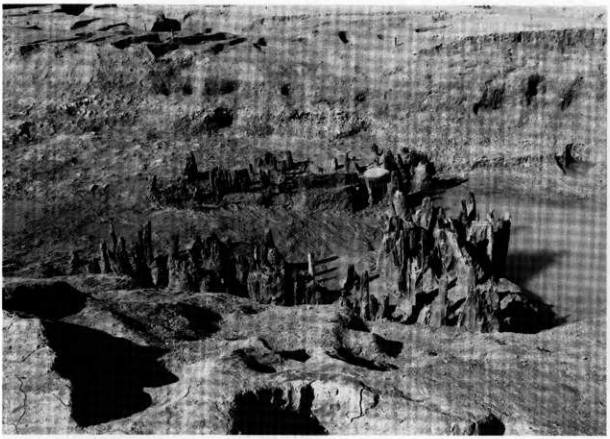
久恵今町遺跡調査全景（南から）



久恵今町遺跡調査全景（真上から）

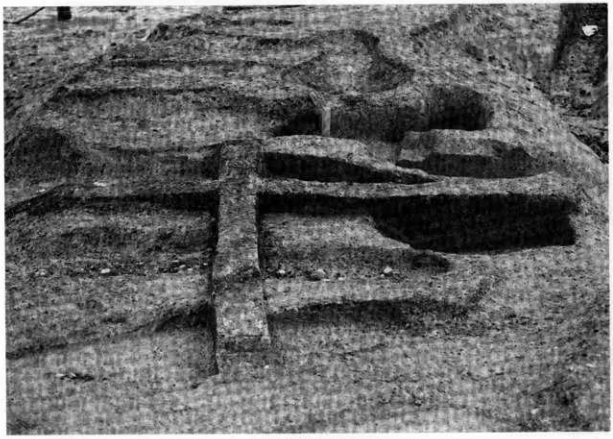


SD001杭検出状況（西から）



SD001杭検出状況（東から）

SX027土層観察（西から）



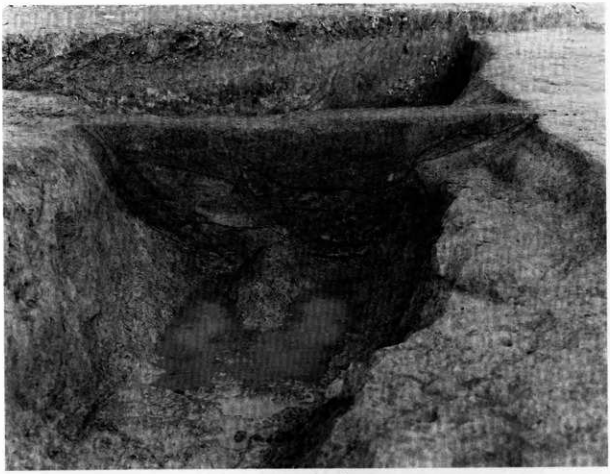
SX027土層観察（南から）

SD030土層観察（南から）

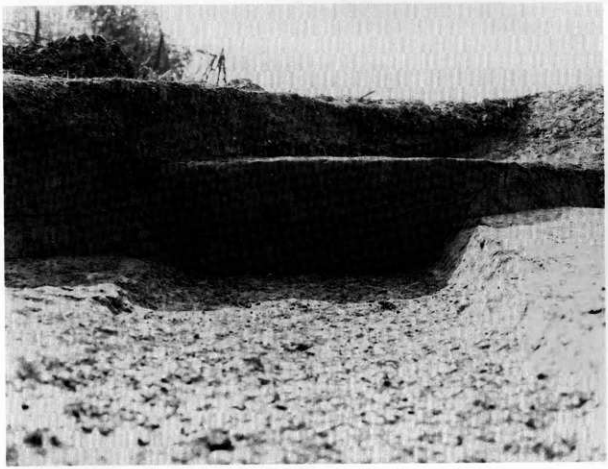
SD001Aトレンチ（西から）

新溝大丸遺跡調査全景（西から）

SD002完掘状況（北から）



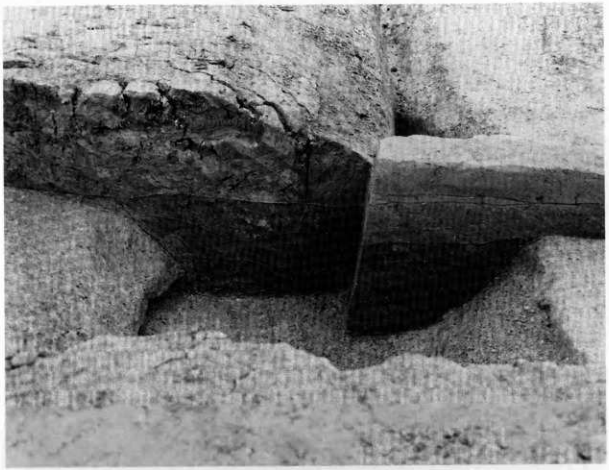
SD002土層観察（南から）



SD003土層観察（北から）

鶴田東大坪遺跡第２次調査全景（南から）

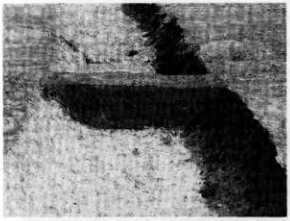
SD001土層観察（南から）



SD001土層観察（北から）

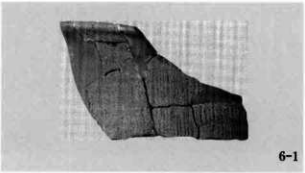
SD001完掘状況（北から）

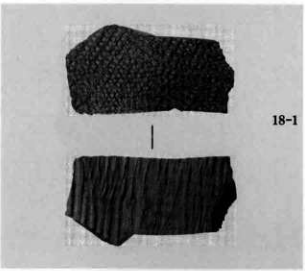
鶴田溝代遺跡調査全景（東から）



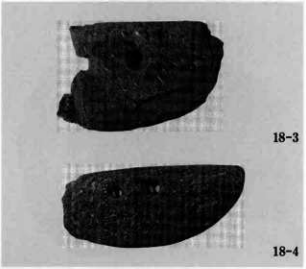
SD002土層観察（東から）

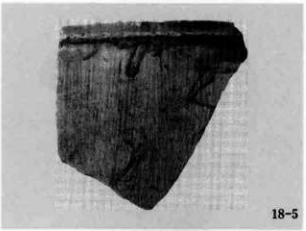
SD003土層観察（南から）

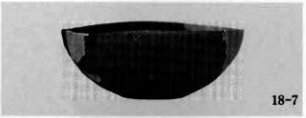

6-1

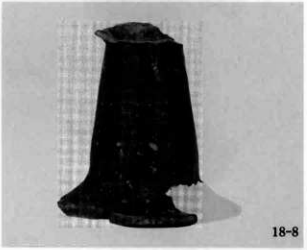

18-1

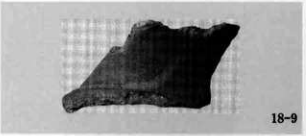
18-2

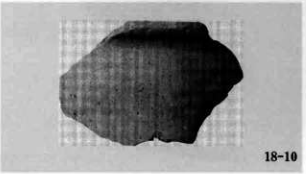

18-3
18-4

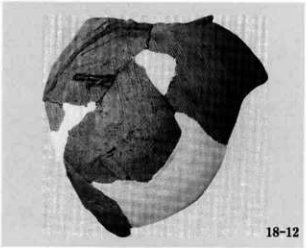

18-5

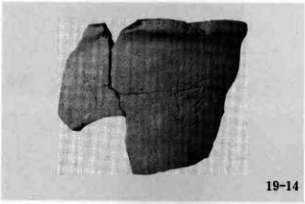

18-7


18-8


18-9


18-10

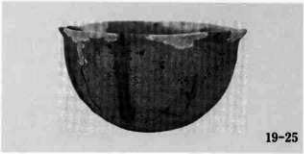

18-12

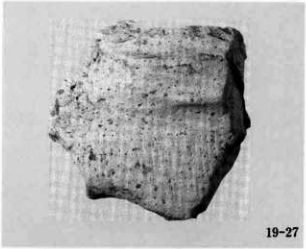

19-14

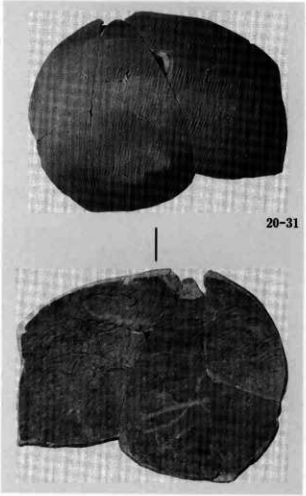
19-16

19-18

19-21

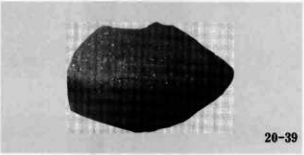

19-25

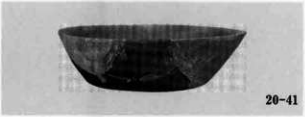

19-27


20-31

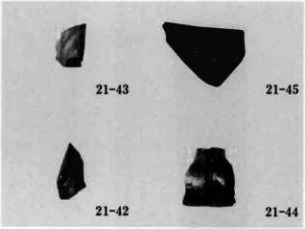
20-32

20-34

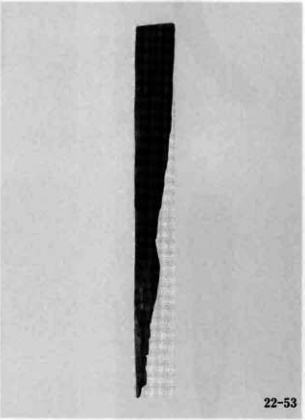

20-39


20-41

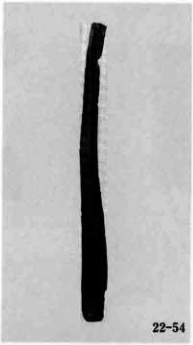
21-49 21-50

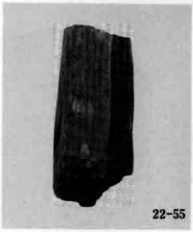

21-43 21-45 21-42 21-44

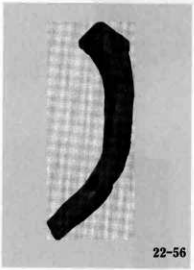
21-51

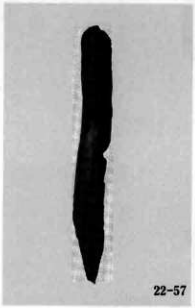

22-53

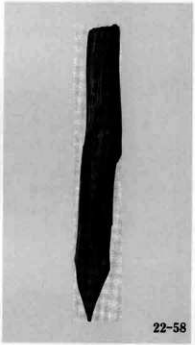
22-53

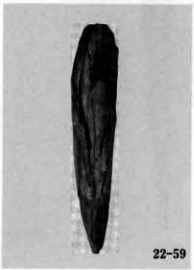

22-54

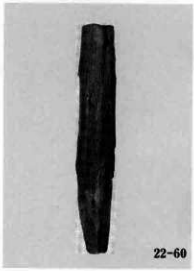

22-55


22-56

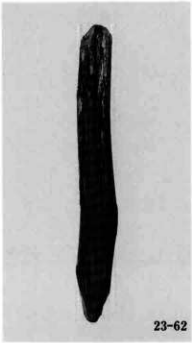

22-57

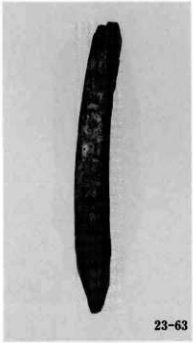

22-58

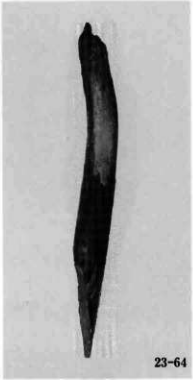

22-59

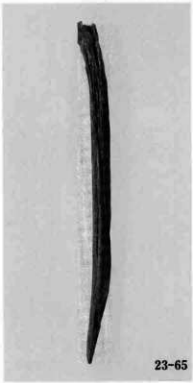

22-60

23-61

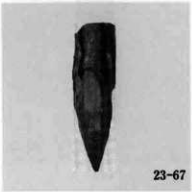

23-62


23-63


23-64


23-65

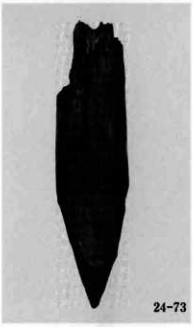
23-66


23-67

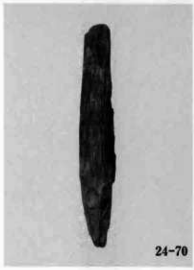
23-68

24-69

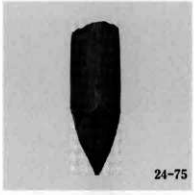
24-72

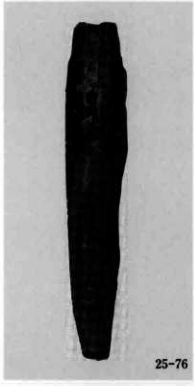

24-73

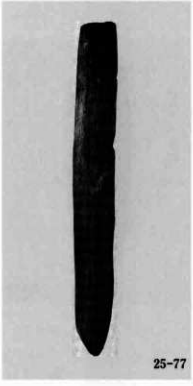
24-74

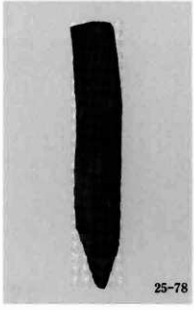

24-70

24-71

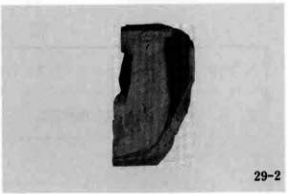

24-75

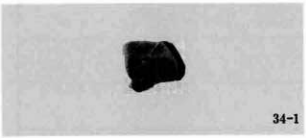

25-76

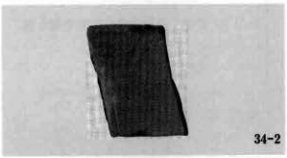

25-77

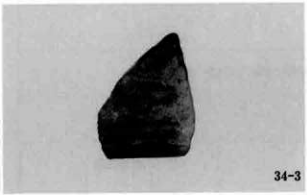

25-78

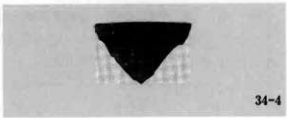
29-1


29-2


34-1


34-2


34-3


34-4

筑後東部地区遺跡群Ⅳ
筑後市文化財調査報告書　第30集
平成12年３月

発行　筑後市教育委員会
福岡県筑後市大字山ノ井898
印刷　大同印刷株式会社
佐賀県佐賀市天神一丁目1-32